

成人

- 2 **大管長会メッセージ**
警告の声を上げましょう
ヘンリー・B・アイリング管長
- 25 **家庭訪問メッセージ**
信仰において力強く揺るぎなくありなさい
- 10 **特集**
教義と聖約の研究を充実させる
中央日曜学校会長会
教義と聖約の研究をより充実させる4つの方法
- 18 **インスティテュートを通して魂を養う**
あがし証を強め生活を変えるのにインスティテュートがどのように助け
になったかを、ヤングアダルトが話します。
- 26 **川を渡る信仰**
アダム・C・オルソン
ほんろう氾濫した川に胸までつかったラファエルは、主の用向きを行
う者には主の助けを受ける資格があることを知りました。
- 28 **ジョセフ・スミス——イエス・キリストの使徒**
デニス・B・ノイエンシュワンダー長老
ジョセフ・スミスは、キリストの存在と復活の証人、またキリスト
の贖いの力を使徒として証するため神から召されました。
- 14 **シリーズ**
教義と聖約からの教訓——神の前における自信
マイケル・ジョン・U・ター長老
神の信頼を得るために、わたしたちには
何ができるでしょうか。
- 44 **末日聖徒の声**
母の勧告、家族の祝福、贖いによる平安
- 48 **今月号の活用法**
家庭の夕べのためのアイデア、
今月号に採り上げられているテーマ、
家庭の夕べの成功例

表紙

表紙——「わたしは光を見た」ジョン・マクナートン画
裏表紙——「ジョセフとハイラムの殉教」ゲラリー・スミス

青少年

- 8 **特集**
8 **神を見いだす** メアリー・ウィーニグ
アラスカに行って働き、疑問への答えを見つけました。
- 22 **最も役立つ知識** クレイトン・M・クリステンセン長老
モルモン書が真実かどうかを知る必要があると心の底から感
じました。
- 36 **信者の模範** 中央若い男性および若い女性会長会
あなたの影響力によって世の中は変わります!
- 40 **ハイチには希望があります** リチャード・M・ロムニー
ハイチに住む10代の若者には、伝道の手が伸びています。
- 17 **シリーズ**
ポスター——降り注ぐ祝福
- 35 **短いメッセージ**
大いなる祝福——お気に入りの賛美歌
- 39 **教えに教え——1テモテ4:12**
今年のミューチャルのテーマを理解する



末日聖徒イエス・キリスト教会公式国際機関誌(日本語版)
大管長会:トーマス・S・モンソン、ヘンリー・B・アイリング、
ディーター・F・ウークトドルフ
十二使徒定員会:ボイド・K・バッカー、L・トム・ペリー、
ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オークス、
M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、
リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、
ジェフリー・R・ホランド、デビッド・A・ベドナー、
クエンティン・L・ウック、D・トット・クリストファーソン

編集長:スパンサー・J・コンディ
顧問:ゲリー・J・コールマン、ケネス・ジョンソン、菊地良彦、
W・ダグラス・シャムウェー

実務運営ディレクター:デビッド・L・フリッシュニク

編集ディレクター:ピクター・D・ケーブ

編集主任:ラリー・ヒラー

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク

編集主幹:R・バル・ジョンソン

編集局次長:ジェニファー・L・グリーンウッド

共同編集者:ライアン・カー、アダム・C・オルソン

編集補佐:スーザン・バレット

編集スタッフ:クリスティー・バンス、リンダ・ステール・クーパー、デビッド・
A・エドワーズ、ラリーン・ポーター・ガント、キャリー・カステン、ジェニ
ファー・マディー、メリッサ・メリル、マイケル・R・モリス、サリー・J・オデ
カーク、ジュディス・M・パーラー、ジョシュア・J・パーキー、チャド・E・ファ
レス、ジャン・ピンボロ、リチャード・M・ロムニー、ドン・L・サール、ジャ
ネット・トーマス、ポール・バンデンバーク、ジェフリー・ワーデル

主任秘書:ローレル・トイスチャー

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ビーターズ

デザイン・制作スタッフ:カリ・R・アロコ、ロレット・ネベカー、ハワード・G・ブ
ラウン、ジュリー・バーデット、トーマス・S・チャイルド、レジナルド・J・クリス
テンセン、キム・フェンスターマカー、キャスリーン・ハワード、エリック・P・
ジョンセン、デニス・カービー、スコット・M・ムーイ、ギニー・J・ホルソン

製版:ジェフ・L・マーティン

印刷ディレクター:クレイグ・K・セドウィック

配送ディレクター:ランディー・J・ベンソン

日本語版翻訳課長:ヘンリー・W・サブストローム

●定期購読は、『リアホナ』注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替
(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-
41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵
送いたします。●『リアホナ』のお申し込み・配送についてのお問い合わせ
……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・
キリスト教会 管理本部配送センター 電話:03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

定 価 年間予約/海外予約 1,800円(送料共)
半年予約 1,200円(送料共)
普通号/大会号 200円

『リアホナ』へのご投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。
Room 2420, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150, USA
電子メール: liahona@ldschurch.org

『リアホナ』(モルモン書に出てくる言葉。「羅針盤」または「指示器」の意)は、
以下の言語で出版されています。

アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、インドネシア語、ウ
クライナ語、ウルトゥー語、英語、エストニア語、オランダ語、韓国語、カンボジ
ア語、ギリシャ語、キリバス語、クオアチア語、サマ語、シンハラ語、スウェ
デン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、タヒチ語、
タミル語、チェコ語、中国語、テルグ語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日
本語、ノルウェー語、ハイチ語、ハンガリー語、ヒンディー語、ヒンディー語、フィ
ジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、
ポルトガル語、マラヤラム語、マダガスカル語、モンゴル語、ラトビア語、リト
ニア語、ルーマニア語、ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2009 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷/日本
『リアホナ』に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において
一時的に、また非営利目的で使用する場合は複写することができます。
視覚資料に関しては、作品の著作権表示に制限が記されている場
合に複写できないことがあります。著作権に関するご質問は、
Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street,
Salt Lake City, UT 84150-3220, USA に郵送するか、電子メール
——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

『リアホナ』は、教会のホームページwww.lds.org(英語)に様々な言語で掲載
されています。英語の場合は"Gospel Library"(福音ライブラリ)をクリック
してください。その他の言語は"Languages"(言語)をクリックしてください。

合衆国とカナダの読者の方へ:

2009年1月号第33巻第1号『リアホナ』(USPS331-480)英語版(ISSN
1080-9554)は、末日聖徒イエス・キリスト教会(50 E. North Temple
Street, Salt Lake City, UT 84150)の月刊誌です。合衆国での購読料は
年間10ドル、カナダでは12ドル(税別)です。Periodicals Postage
Paid at Salt Lake City, Utah(送料込み)。住所変更は60日前にご連絡
ください。最近の号の宛名ラベルを同封し、新旧送先を明記してください。
合衆国とカナダでの購読申し込みは、下記のマルチレーク配送センターにお送
りください。購読に関するお問い合わせ:1-800-537-5971。クレジット
カード(ビザ・マスターカード・アメリカンエキスプレス)でのご注文は電話で
お取り扱いできます。(カナダ郵便情報:出版承認番号40017431)
郵便局長殿:住所変更がございましたらお知らせください。連絡先:Salt
Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368,
Salt Lake City, UT 84126-0368

こ ども 子 供

F2 よげんしゃのこゑ——イエス・キリストのようになる
ディーター・F・ウークトドルフ管長

とく しゅう
特 集
F8 タレントショー アリソン・パーマー

F14 ベンの1週間 ラナ・クルムウィード

シリーズ
F4 分かち合いの時間——
わたしには、わたしをあいしてください
天のお父さまがいます。
シェリル・エスプリン

F6 よげんしゃジョセフ・
スミスの子供がいから——
モルモン書のしゅっぱん

F10 ともだちになろう——心をつくして
リチャード・M・ロムニー

F13 いろをぬりましょう



「フレンド」表紙
絵/スティーブ・クロップ



こづつこづつ
今月号のどこかに隠れている
ブルガリア語のCTRリングを
さが
探しましょう。
えら
ただ
選べ、正しいページを!

読者からの便り

新しい支部になじめました

最近インドのベンガルールで仕事に就
きました。ベンガルールはわたしの故郷
チェンナイからかなり離れています。新しい
支部は楽しかったのですが、新しい支部
に行くのは変な気持ちでした。よそ者とい
う感じがして、地元の支部が恋しくなりま
した。そんなとき、2008年1月号の『リアホナ』
の「どのワードにもなじめるように」という記
事を読みました。その記事に励まされて、
多くの会員に自己紹介してみました。支部
の召しを受け新しい友人もできました。い
ちばん大切なのは、教会に来る意味が深
く理解できたことです。今では新しい人に
声をかける機会を楽しみにしています。す
ばらしい記事をありがとうございました。

インド、ジョセフ・アイザック

『リアホナ』のおかげで福音を宣べ伝え ることができました

わたしはどこへ行くにもいつも『リア
ホナ』を持って行きます。そのため、こ
れまでたくさんの人を宣教師に紹介す
ることができました。あるとき、病院の
待合室で読んでみると、周りの人が珍
しそうに眺めていました。そこでチャ
ンスを逃さずイエス・キリストの福音と
神が人に教えられた救いの計画につ
いて話してみました。『リアホナ』をい
つも持ち歩くことで、イエス・キリストに
ついて話すことができ、福音を教える
ことができます。

メキシコ、マルガリタ・エレラデペロ



警告の声を上げましょう

大管長会第一顧問

ヘンリー・B・アイリング管長

主は憐れみ深い御方なので、民に危険を警告するよう僕に命じられます。警告するようという命令に従うことは、より困難であり、重要です。なぜなら最も価値ある警告は、民がまだ現実になると考えていない危険に関するものだからです。ヨナについて考えてみましょう。彼は最初、罪のせいで危険が見えないニネベの民に警告するという主の召しから逃れようとしてきました。昔から邪悪な民は預言者を拒み、時には殺してきたことを知っていたからです。それでも、ヨナは信仰をもって前進し、主は安全と成功をもって彼を祝福されました。

親や子供としての経験からも学ぶことができます。親であればだれでも、子供が気づかない危険を察知して心配することがあります。子供を危険から遠ざける方法を知るために親がささげる祈りは、どのような祈りよりも熱烈です。親が発する警告の声に聞き従ったときの祝福は、ほとんどの人が経験しています。

今でも覚えています。母はある土曜の午後、幼いわたしを優しく諭してくれました。わたしが正当だと考えて許可を求めた行為が、危険であることが母には分かったからです。母に授けられていた力にはいまだに驚嘆します。それは主から受けた力だったと信じていますが、わずかな言葉でわたしの進む方向を正してくれたのです。確かこのような言葉でした。「そうすることもできるでしょうね。でも、選ぶのは自

分なのよ。」唯一の警告は、「できる」と「選ぶ」の単語が強調されたことでしたが、わたしにはそれで十分でした。

母の短い警告の言葉に力を感じたのは、わたしが母について次の3つの事実を知っていたからです。第1に、母が愛してくれていることをわたしは知っていました。第2に、母は似たような状況に置かれたことがあり、正しい選択により祝福を受けてきたことをわたしは知っていました。そして第3に、母が確かな証を伝えたことです。すなわち、わたしのしなければならぬ選択は非常に大切なので、求めさえすれば、なすべきことを主が告げてくださる、という証です。愛、模範、証が鍵でした。この3つはわたしが主の僕の警告に聞き従って祝福されたときには、いつでも鍵となってきました。

警告の声を人々の心に伝える能力は、聖約を交わしたすべてのイエス・キリストの弟子にとって重要なものです。次の責任は、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員一人一人に与えられています。「見よ、わたしは、人々に証し警告するためにあなたがたを遣わした。警告を受けた人は皆、その隣人に警告しなければならない。」(教義と聖約88:81)

警告する義務

隣人に警告する責任は、バプテスマの聖約を受け入れたすべての人に課せられています。わたしたちは教会員でない友人や親戚の人に



主の言葉は
宣教師にも
わたしたち全員にも
当てはまります。
「さて、あなたがたが
わたしのもとに導いて
わたしの父の王国に
入れるようにした、
一人の人とともに受ける
あなたがたの喜びが
大きいならば、
もし多くの人を
わたしのもとに
導くとすれば
その喜びは
いかに大きいことか。」

宣教師から
学ぶようにと
人に
勧めるときに、
宣教師が真理を
教えてくれることと、
幸福に至る
選択の機会を
与えてくれることを
証できるのです。

福音について話す義務があります。その目的は、教えるために召されて任命された専任宣教師から学ぶように勧めることです。そして、相手が宣教師から学ぶという勧めを受け入れることを選ぶなら、彼らはバプテスマの水に入って忠実な会員であり続ける可能性のある、すばらしい約束を伴う「リフェロー」となるのです。

教会員の皆さんは、専任宣教師やワード・支部宣教師から、福音を分かち合える人のリストと一緒に作りましょうかと尋ねられることでしょう。宣教師は親戚や隣人、知人について考えるように提案するかもしれません。また、目標の日付を決めてくださいますかと尋ねるかもしれません。その日までに、個人や家族が宣教師から教えを受けられるように備えるのです。わたしも実際にそのような経験をしたことがあります。わたしの家族は宣教師のその勧めを受け入れました。その結果わたしは、姉妹宣教師からレッスンを受けた、夫を亡くした80代の女性にバプテスマを施す機会に恵まれたのです。

わたしは彼女の頭に手を置いて、教会の会員に確認しました。わたしは御霊みなたまに感じて、バプテスマを受けるよう選んだことが数世代にわたる彼女の先祖と子孫に祝福をもたらすと宣言しました。彼女が亡くなった後にも、彼女の息子が親子の結び固めを受けたときに、わたしは彼と一緒に神殿にいたことができました。

皆さんも、福音を学ぶように勧めた人と一緒にそのような経験をして、これより大きな喜びは人生にそう多くはないことを知っているかもしれません。主の次の言葉は、宣教師とわたしたち全員に当てはまります。「さて、あなたがたがわたしのもとに導いてわたしの父の王国に入れるようにした、一人の人とともに受けるあなたがたの喜びが大きいならば、もし多くの人をわたしのもとに導くとすればその喜びはいかに大きいことか。」(教義と聖約18:16)

宣教師は助け励ましてくれるでしょう。けれども、バプテスマフォントや神殿でもっと頻繁にバプテスマを見られるかどうかは、大部分、わたしたちがその責任をどうとらえ、どのような選

択をするかにかかってくるでしょう。もし何の危険もなければ、主は「警告」という言葉を使われなかったでしょう。しかし、わたしたちの知人の中で危険に気づく人は多くありません。世の中がばらばらになる徴候、自分の生活や家族の中にかつてはあり得ると思っていた平安が欠けているという徴候は増えているのに、人はそれを無視するようになりました。危険のしるしを自ら無視すれば、このような考えに陥りやすいでしょう。「満足して生活しているような人になぜ福音を伝えるべきなのだろうか。何もしない、または言わないからといって、彼らや自分にどんな危険があるだろうか。」

確かに危険は見えにくいかもしれませんが、相手と自分の両方に実在します。例えば、皆さんがこの世で会ったすべての人は、いつの日か「来るべき世」で、皆さんが今持っている知識を得るでしょう。そして、家族とともに天の御父と御子イエス・キリストのもとで永遠に住む唯一の道は、神から権能を受けた人の施すバプテスマによって門をくぐるという選択にあることを知るでしょう。また、家族が永遠に結ばれる唯一の方法は、この地上の神の神殿で授けられる神聖な聖約を受け入れ、守ることにあるということを知るでしょう。彼らは皆さんがそのすべてを知っていたことも分かるでしょう。そして、かつて皆さんがだれかから聞いた福音を、自分は皆さんから聞いたかどうかを思い出します。

「まだその時ではない」と言うのは簡単ですが、引き延ばしには危険が伴います。何年も前に、わたしはカリフォルニアである男性の下で働いていました。彼はわたしの雇い主でした。わたしに親切で、わたしを高く評価してくれているようでした。彼の知り合いで、わたしはただ一人の末日聖徒だったかもしれません。なぜかは分かりませんが、わたしは福音について話すにはもっといい機会があると思ってぐずぐずしていません。ですから、あのとときの悲しみは今でも忘れません。彼が引退し、わたしが遠くへ引っ越した後、彼と奥さんは事故死したのです。夜遅くカリフォルニア州カーメルカメルの自宅



に車で帰る途中のことでした。彼は奥さんを愛し、子供たちを愛し、両親を愛していました。彼は孫たちを愛していました。そして、孫たちの子供たちをも愛するでしょうし、彼らと永遠に一緒にいたいと願うことでしょう。

来るべき世で、神の無数の子供たちとどのように交わるのかわかりません。しかし、たぶんわたしは彼に会うでしょう。そして、彼はわたしをじっと見詰めて、その目がこう尋ねるでしょう。「ハル、君は知っていたね。なぜ話してくれなかったんだ？」

彼のことを考えるとき、またわたしがバプテスマを施したあの女性と今は結び固められているであろう彼女の家族のことを考えるとき、もっと良い僕になりたいと思います。教えを受けるように勧める力を強めたいのです。そういう願いと、神が助けてくださるという信仰を持つなら、わたしたちはさらに良い働きができるでしょう。

いちばん大切なのは愛

この働きの根底にはいつも愛があります。一度だけの親切では十分ではありません。主は、わたしたちが持たなければならぬ愛、招きを受ける人がわたしたちの中に感じなければならぬ愛について述べておられます。「愛は寛容であり……すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。」(1コリント 13:4, 7)

わたしは「寛容」と「すべてを耐える」ことの意味がよく理解できました。わたしの近所に、ある家族が越して来ました。家ができたばかりだったので、ほかの教会員たちと一緒に幾晩にもわたって庭造りを手伝いました。最後の晩、ちょうど作

業が終わるときに、わたしはその家族の父親の隣に立っていました。彼はわたしたちの仕事ぶりを見渡して言いました。「これでモルモンの人たちが庭を造ってくださったのは3度目ですが、今回がいちばん出来がいいですよ。」それからわたしに向かって静かに、しかしきっぱりと、自分の通っている教会にとっても満足していると言いました。彼はその家に何年も住みましたが、その間、しばしばそのようなことをわたしに言いました。

彼がそこに住んでいた期間、彼と家族に対する親切な行為が絶えることはありませんでした。近所の人がこの家族を愛するようになったからです。ある晩帰宅すると、彼の家の前にトラックが止まっていました。わたしは彼らが別の州に引っ越すと聞いていたので、何か手伝えるかと思い、近づいて行きました。家具をトラックに積み込んでいるのがだれかは分かりませんでした。彼は近づいて来るわたしに静かにこう言いました。「こんばんは、アイリング兄弟。」わたしは、それがすっかり大きくなった息子さんと気づきませんでした。なぜなら彼は、以前そこに住んでいましたが、結婚して、引っ越していたからです。彼は多くの人から受けた愛により、今はバプテスマを受けて、教会員になっていました。この話の結末は知りません。終わりが無いからです。しかし、始まりは愛でした。

第2に、わたしたちは人に行うように勧めることを、自らよりよく行う必要があります。悪のはびこる世では、救い主のこの教えがさらに重要になるでしょう。「そのように、あなたがたの光を人々の前に輝かし、そして、人々があなたがたのよ

いおこないを見て、天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい。』(マタイ5:16)

ほとんどの人は謙虚なので、自分の小さな模範の光は暗すぎて人の目に留まらなると考えます。しかし、皆さんや家族は、思っている以上に見られています。少し前、わたしは様々な教会の聖職者や指導者が300人近く集まる会合に出席し、話をする機会がありました。そこで、できるだけ多くの人と会話しました。そしてなぜわたしのメッセージにそんなに熱心に耳を傾けてくれるのか尋ねました。わたしが伝えたメッセージは教会の起源の話であり、少年ジョセフ・スミスの最初の示現や、生ける預言者の話でした。例外なく、返って来る答えは本質的に同じでした。彼らは知り合いの教会員の個人や家族の話をするのです。よく聞いたのは、このような言葉です。「あれほどすてきな家族は初めてです。」教会員が地域社会の活動や災害救援活動を非常によく行っている話も何度も耳にしました。

こうした集会でわたしが会った人々は、まだ教義上の真理は理解していませんでしたが、教会員の生活に表れる真理の実をすでに見ていたので、話を聞く準備ができていたのです。回復された真理に耳を傾け、家族が永遠に結び固められることや、福音が人の性質を変えることを聞く備えができていました。皆さんの模範によって、備えられたのです。

第3に、もっと上手に行く必要があるのは、証をもって勧めることです。愛と模範は道を開きます。しかし、それでもわたしたちは口を開いて証を述べなければなりません。「真理と

選択は、密接に関連している」という単純な事実がわたしたちに力を与えています。天の御父の子供は皆、霊的な真理について証を得るためにすべき選択があります。そして一度何らかの霊的な真理を知ったら、それに従って生活するかどうか選ばなければなりません。愛する人や友人に真理について証するときには、なすべき選択があることを伝える必要があります。彼らが自ら真理を知ったときに、しなければならぬ選択です。二つの大切な例を挙げましょう。すなわち、モルモン書を読み、宣教師から教えるように勧めるといふことです。

モルモン書が真実であることを知るには、まず実際に読む必要があります。それから、モロナイの勧めに従い、それが真実かどうか祈るといふ選択をしなければなりません(モロナイ10:3-5参照)。わたしたちがそのようにしていれば、友人もその選択をして同じ真理を知ることができるということ、実際の経験から証することができます。そして、モルモン書が神の言葉であると分かたら、次の選択に直面します。すなわち、宣教師から学ぶという勧めを受け入れるかどうか選ぶのです。そうするように証をもって勧めするには、宣教師が神の僕であることを皆さん自身が知る必要があります。

この証を得るための選択は、宣教師を自宅に招いて家族や友人を教えてもらうことです。宣教師はそのような機会を歓迎するでしょう。宣教師が教えるときにその場に座っていると、わたしが感じたように、彼らが年齢や教育を超えた力を受けていることが分かるでしょう。そうすれば、宣教師から

ホームティーチャーへの提案

このメッセージをよく祈って研究した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 紙で3つの鍵を作り、「愛」「模範」「証」と書く。アイリング管長の母親について話す。鍵を見せ、話の中でこの3つの鍵がどのような役割を果たしたか、家族に尋ねる。本文中の実例を用いて、隣人に警告することの大切さを説明する。隣人に警告する際にこの3つの鍵がどのような助けとなるか、家族に話してもらう。最後の段落のアイリング管長の証を読んで終える。

2. 訪問先の家族のために、お菓子かクッキーを持って行く。全員に見える所にお菓子を置くが、食べるように勧めない。アイリング管長の雇い主であったカリフォルニアの人の話をする。彼が亡くなったことを知ったアイリング管長の気持ちについて話し合う。家族と一緒ににお菓子を食べずに出かけるとしたら、どのような気持ちがあるか、家族に尋ねる。人と福音を分かち合う方法について話し合う。

学ぶようにと人に勧めるときに、宣教師が真理を教えてくれることと、幸福に至る選択の機会を与えてくれることを証できるのです。

約 束

わたしたちの中には、自分の愛や生活態度、あるいは証の力が、隣人に勧めを受け入れさせるほど十分なものととても思えないと考えている人がいるかもしれません。しかし、主はわたしたちがそのように感じるかもしれないことを御存じでした。主の励ましの言葉に耳を傾けてください。主はこの言葉を教義と聖約の最初の章に収めるように指示し、わたしたちに次のような責任を与えられました。「また、警告の声は、この終わりの時にわたしが選んだ弟子たちの口を通して、すべての民に及ぶ。」(教義と聖約1:4)

これらの弟子たち——すなわちわたしたち——の特質に注意してください。「世の弱い者たちが出て来て、力ある強い者たちを打ち破る。」(教義と聖約1:19)

さらにこうあります。「わたしの完全な福音が弱い者や純朴な者によって世界の果てまで……宣べられる……。」(教義と聖約1:23)

そしてこうです。「謙遜であれば、強くされ、高い所から祝福を受け……る。」(教義と聖約1:28)

この約束は、教会の最初の宣教師や現在の宣教師に与えられたものですが、わたしたち全員にも当てはまります。信仰を持つ必要があります。わたしたちは十分な愛を示せるという信仰、わたしたちは福音によって十分に祝福を受けるといふ信仰です。そうすれば、わたしたちが人々に選択を勧めるときに、彼らはそれを主御自身からの勧めとして受け入れられるようになるのです(もちろんそれは実際に主からの勧めなのですが)。

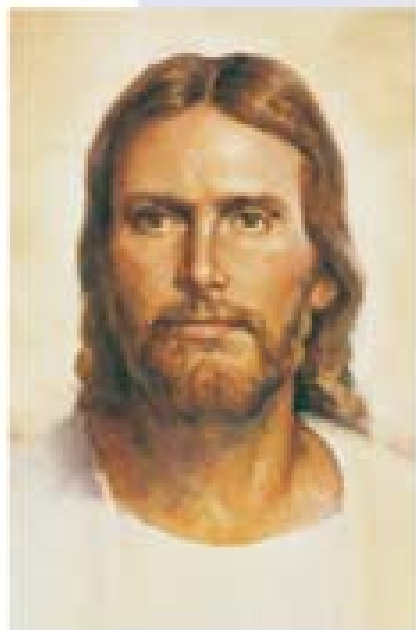
主の模範は、わたしたちがすべきことの完全な模範です。皆さんが主の呼びかけにこたえなかったときも、主は愛と思いやりを示してこられ、皆さんは主の愛を感じてきました。同じよ

うに、皆さんが福音を携えて近づく人々もこたえてくれないかもしれません。主は何度も、主の僕の教えに従うように勧めてこられたのです。皆さんは、ホームティーチャーや訪問教師の訪問、ビショップからの電話の中に、それがあるのが分からなかったかもしれません。しかしこれらは、助けや教えを受けるようにとの主の勧めです。また、主はいつも結果を明白にしてから、わたしたちに自分で選ぶことを許されます。

主の僕リーハイは息子たちに、すべての人に常に当てはまる真理を教えています。「ところで、息子たちよ、わたしはあなたがたが偉大な仲保者に頼り、主の大いなる戒めに聞き従い、主の御言葉に忠実であって、主の聖なる御霊の御心に添って永遠の命を選んでほしいと思っている。」(2ニーファイ2:28)

わたしたちには、宣教師からレッスンを受けるといふ選択は、神の最大の賜物である永遠の命に至る道に入る選択であるということを示す責任があります。ヤコブの聖句はその責任を果たせるよう促してくれます。「それゆえ、心を喜ばせなさい。そしてあなたがたは、自分の思うとおりに行動すること、すなわち永遠の道の道を選ぶことも、永遠の命の道を選ぶことも自由であることを覚えておきなさい。」(2ニーファイ10:23)

イエス・キリストの回復された福音を受け入れて生活することによってのみ、この世では主が約束された平安が、来るべき世では永遠の命への希望がもたらされることを証します。天の御父の子供であるわたしたちの兄弟姉妹をこれらの祝福に導くために、真理を伝え選択の機会を与えるという義務と特権がわたしたちに授けられていることを証します。イエスはキリストです。主は生きておられ、これは主の業です。■



信 仰を持つ
必要があります。
わたしたちは
十分な愛を示せる
という信仰、
わたしたちは
福音によって
十分に祝福を受ける
という信仰です。
そうすれば、
わたしたちが人々に
選択を勧めるときに、
彼らはそれを
主御自身からの
勧めとして
受け入れられる
ようになるのです
(もちろんそれは
実際に主からの
勧めなのですが)。



神を見いだす

メアリー・ウィーニグ

18歳になる少し前の夏休みの間、わたしは飛行機でアラスカ州のソルドントナという小さな町に行き、アルバイトをしました。家を離れて生活するのは生まれて初めてでした。両親が友人のライト夫妻に頼んでくれ、わたしは夫妻の家に寝泊まりしながら、彼らのスーパーで働くことになっていたのです。わたしは大学の学費を自分で稼ぎたいと思っていました。また、これまで何度も頭をよぎってきた疑問への答えを、家に帰るまでに見つけたいとも思っていました。それは、神は実在するのだろうかという疑問です。

答えは自分自身で見いだす必要がありました。そこで、毎晩祈って、神はほんとうにおられるのか尋ねようと心に決めていました。もし神が実在すればきっと答えてくださると、なぜかわたしは感じていました。もし答えがなければ、神は実在しないと納得できるでしょう。簡単なことだと思いました。

ライト家では夫妻の娘のリサと同じ部屋に寝泊まりしました。リサはブリガム・ヤング大学の学生で、夏の間は帰省していて、一緒にスーパーで働いているのです。わたしは初めて会ったときからリサにあこがれました。リサは美人で頭が良く、自信に満ちていて、前向きに生きていました。その夏は毎日ほとんど一緒に過ごしました。

リサが大学生活について話してくれるのが大好きでした。学生生活はとても楽しそうで、リサが自立しているように思えました。リサは正しい優先順位を固く守り、整然と、バランスの取れた生活を送っていました。

リサが毎日聖典を読み、毎晩祈るのを見て、ますます尊敬するようになりました。どのようにして神を信じるようになったのかりサに聞きたいと思いましたが、自分の弱い信仰を恥ずかしく思いました。ベッドで横になりながら、リサはどんなことを神に話すのだろうと思ったことを覚えています。

毎晩、わたしはベッドの横にひざまずいて短く祈り、神がおられるのか尋ねました。しかし、特別な気持ちも、霊的な気持ちも感じませんでした。声も聞こえませんでした。祈り終わっても、祈る前と変わらない気持ちでした。これが2か月間、

毎晩続きました。落胆し、神の存在を疑う気持ちが増してきました。

ある夜、自分の家をとっても恋しく思っていると、涙が込み上げてきました。どうしようもないほど、家族や友達のいる住み慣れた場所に戻りたくなりました。わたしをよく理解し、愛してくれる人と話したくて、ひざまずいて祈りました。「神様、あなたが今ほんとうに必要です」と始めました。それから数分間、天の御父に自分のほんとうの気持ちを注ぎ出しました。包み隠さずすべてを話しました。神がそこにおられるかのように話しました。

すると、わたしは何か温かいものに包まれました。まるで天の御父が降^{くだ}って来られ、わたしを腕の中に抱き締めてくださっているような感じです。わたしはもう孤独ではありませんでした。愛と安らぎに包まれたのです。神がおられることを知りました。

なぜ、祈りの答えを得るのに2か月以上もかかったのでしょうか。その答えとしてエレミヤ書29章134節に「あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば」とありました。

心の底から求めて初めて、祈りの答えを得ることができたのです。わたしは神の実在を信じることにしました。わたしは言葉と涙をもって、はるか天まで尋ね求めました。

あの夜のおかげで人生は一変しました。わたしは伝道に出て神殿で結婚しました。神が実在されるという信仰は増し続けています。

アラスカで過ごしたあの夏をよく思い出します。リサの模範がなければ、わたしは何か月も祈り続けるのに耐えられなかったかもしれません。さっさとあきらめてしまい、天の御父の愛を見いだせずにいるかもしれません。わたしはリサに、そしてリサの模範に、永遠に感謝し続けるでしょう。リサはわたしが神を知り、神から愛されていることを実感できるよう、助けてくれたのです。■



教義と聖約の 研究を充実させる



会長のA・ロジャー・メリル(中央), 第一顧問のダニエル・K・ジャッド(左),
第二顧問のウィリアム・D・オズワルド

わたしたち一人一人にとって、今年は教義と聖約を研究し、偉大な祝福を得るすばらしい機会です。

教義と聖約はわたしたちの時代に書かれた、わたしたちの時代のための、驚くべき啓示の書です。

中央日曜学校会長会

回復に関する主の手引きとも呼ばれる教義と聖約には「時満ちる神権時代に新たに語りかけられた主イエス・キリストの優しい、それでいて確固とした声」が記されています。¹

これまで多くの会員がこの書を深く愛してきました。ある姉妹はこう語っています。「教義と聖約に収められている、個人への具体的な啓示から助けを得ています。自分に関係があると感じるので、」別の姉妹は次のように述べています。「教義と聖約は古代の話ではない

ので、今の自分が直面している状況に関連づけやすいです。」ある兄弟はこう言います。「教義と聖約が好きです。神権についてよく理解できますから。」

教義と聖約が確かにこの時代の神の子供一人一人に対して発せられた主の声であること、そして、教義と聖約を研究する人々が豊かに祝福されることを、わたしたちは証します。今年の聖文学習が実り多いものとなるように、皆さんに4つのことを勧めます。そして、日曜学校がどのように助けになるかも教えます。

教義と聖約を初めから終わりまで通して読む

『教義と聖約・教会歴史 生徒用学習ガイド』は、テーマで分けた毎週日曜日の読書課題を達成し、さらに、2009年中に教義と聖約を「最初から最後まで読み通す」²よう奨励しています。

このように学習することにより、章そのものの内容が理解できるだけでなく、一緒に学ぶ各章の背景や関連性が理解できるようになります。学習ガイドに従って予習するなら、日曜学校の話し合いはさらに充実し、個人や家族で応用できる、さらに深い理解や靈感を受けられるようになるでしょう。

毎日の聖文学習の中で、1週間の1日か2日を次のクラスで話し合う事柄の予習に充て、それ以外の日を使って教義と聖約を読み通していく方法は、皆さんの学習の助けになるでしょう。

質問を念頭に置きながら読む

グアテマラのレンゾ・モリ・バリオス・マティアス兄弟は、個人の啓示を受けるために聖文学習には威力があることを知りました。

「2001年、ハリケーンミッチが中央アメリカを通過し、すべてが瓦礫と化したとき、わたしには多くの疑問がありました。答えを求めて、尊敬する友人のところへ行きました。彼はこう言いました。「聖典を読んでごらん。君の疑問に対する最良の答えがそこにあるよ。」

マティアス兄弟は語ります。「この言



福音を力強く教え、靈感によって学ぶために、教師と生徒が理解しなければならぬことがあります。教会のどのクラスにおいても聖霊が真の教師であられ、クラスに参加することによって御霊が証してくれるということです。

葉はわたしの人生を変えました。それから長い間聖文を学びました。そして、疑問の答えが見つかり始めました。人生には意味があるということが分かったのです。専任宣教師として奉仕する決意を固めたのはそのときです。」

間もなく、マティアス長老はホンジュラス・テグシガルパ伝道部で奉仕を始め、人々が聖文学習の威力に気づけるよう助けました。

具体的な質問を念頭に置きながら読めば、試練に遭うときや何らかの機会が訪れたときに、主の靈感や導きを受けやすくなります。聖文学習を通じて答えを見つけない質問を祈りの気持ちで書き出してください。答えを受けたら、その深い理解を日曜学校で分かち合うよう促されるかもしれません。主が聖文を使ってわたしたちをどのよ

うに導き、靈感されるかについて、ふさわしい態度で互いに証を述べ合うなら、日曜学校の生徒は教化されます。

関係、パターン、テーマを探す

十二使徒定員会のデビッド・A・ベドナー長老は、聖文を学ぶときはいつも、関係、パターン、テーマを探すように勧めています。³

教義と聖約の中から関係の例を一つ紹介しましょう。従順であることと、それに応じて約束された祝福の関係です。「あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う。しかし、あなたがたがわたしの言うことを行わないとき、あなたがたは何の約束も受けない。」(教義と聖約82:10) この関係を認識し、聖文の中で主が命じておられることを行う

と決意するとき、わたしたちの聖文学習はさらに有意義になります。

教義と聖約の中に見られるパターンの一つは、まさに教義と聖約が生まれた過程そのものの中によく表れています。序文にあるように「これらの神聖な啓示は、必要な折々に祈りへの答えとして受けたものであり、実在の人々の現実の状況に応じて与えられたもの」です。⁴ そのような啓示は特定の個人に向けたもので、具体的な質問に答えるものでした。その答えは、各人にとって「最も価値のあること」であると、天の御父が御存じのことでした(教義と聖約15:6;16:6)。⁵ 個人の啓示を求めて受ける、というこのパターンは、わたしたち自身の生活にも応用できます。

聖文全体を通して最も頻繁に登場するテーマの一つは、「熱心にわたしを求めなさい。そうすれば、あなたがたはわたしを見いだすであろう。求めなさい。そうすれば、与えられるであろう。たたきなさい。そうすれば、開かれるであろう」です(教義と聖約88:63)。このようなテーマは、神の言葉を読み、深く考え、学ぶ責任は各自に与えられているという事実を受け入れさせてくれます。

教義と聖約は必ずしも一連の物語のようではありませんが、その一方で、関係、パターン、テーマが織り込まれています。日曜学校で聖文について話し合い、自分が理解したことを話し、人が理解したことに耳を傾けるときに、洞察力が増すという祝福が得られます。

ともに教化され、喜べるよう努力する

教会員が御霊によって互いに教え合うとき、「両者ともに教化されて、ともに喜ぶ」と主は語られました(教義と聖約50:22)。福音を力強く教え、靈感によって学ぶために、教師と生徒が理

解しなければならないことがあります。教会のどのクラスにおいても聖霊が真の教師であられ、クラスに参加することによって御霊が証してくれるということです。

2007年2月の世界指導者訓練集会のテーマは、教えることと学ぶことでした。その集会で十二使徒定員会のジェフリー・R・ホランド長老はわたしたちに、福音を学ぶいっそう大きな責任を引き受けるよう勧めました。その後でホランド長老は、靈感に満たされた教師とともに学ぶならば、生徒は受け身にならず、熱心に話し合いに参加することを実演しました。

ホランド長老は次のように述べました。「生徒が学ぶ責任を引き受けられるよう助けるなら、そして、教えたことが真実であると証するなら、神はイエス・キリストの福音のメッセージに対する確信を教師と生徒の心に植え付けてくださるでしょう。」⁶

クラスに出席している人たちが1週間祈りの気持ちで学習し、その後クラスに出席して一緒に聖文を読み、自分の得た理解を分かち合うなら、聖霊は

彼らに証し、彼らが知り行う必要のある具体的な事柄(2ニーファイ 32:3-5 参照)を「心の中」に伝えてくださるでしょう(2ニーファイ 32:1)。

皆さんへの勧め

教義と聖約を研究し学ぶ今年、天の御父とイエス・キリストを信じるわたしたちの信仰は強められ、神の預言者であり回復の預言者であるジョセフ・スミスに対する証も増すでしょう。主はわたしたちの理解の目を開いてくださるでしょう。そして、聖文が生活においてさらに不可欠なものとなるでしょう。⁷

新しい年の初めを迎え、楽しく「[教義と聖約の中にある]これらの戒めを調べ」るよう皆さんにお勧めします。「これらは真実であり、確かであって、これらの中にある預言と約束はすべて成就するから」です(教義と聖約1:37)。■

注

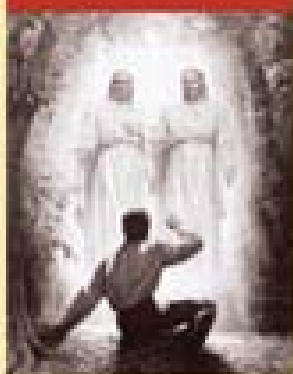
1. 教義と聖約の序文
2. 『教義と聖約および教会歴史 生徒用学習ガイド』「はじめに」2
3. デビッド・A・ベドナー, “A Reservoir of Living Water” (ヤングアダルトのための教会教育システムファイヤサイド, 2007年2月4日)

www.lds.org 参照

4. 教義と聖約の序文
5. 個人に向けられた啓示の他の例として、教義と聖約7-9章; 11-12章; 14-17章参照
6. ジェフリー・R・ホランド「教会で教え、学ぶ」『リアホナ』2007年6月号, 73; *Ensign* 2007年6月号, 105。この放送は <http://www.lds.org> で複数の言語で利用できます。以下の順にクリックしてください。“Gospel Library” “Additional Addresses” “Worldwide Leadership Training: Teaching and Learning”
7. ジョセフ・スミス—歴史1:73-74参照。バプテスマを受けた後、ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは「聖霊に満たされ」ました。彼らの心に「光が注がれ、[彼らは]聖文をはっきりと理解できるように」なりました。

教義と聖約・教会歴史

生徒用学習ガイド



学習ガイドについて

☐ 曜学校に出席する前に『生徒用学習ガイド』を使って予習することは、「互いに王国の教義を教え合」うためのすばらしい準備になります(教義と聖約88:77)。この学習ガイドには学習を進めるための資料が豊富にあります。

- 教義と聖約の紹介
- 毎週の読書課題と関連聖句
- 教会歴史年表
- 教会歴史上重要な地域を示す地図
- 信仰を強め、福音について話し合うよう促す質問
- 『家族——世界への宣言』



神の前における自信



七十人
マイケル・ジョン・U・テー長老

信仰と決意を増すとき、
わたしたちは
さらに天の御父に
近づきます。

「宗 教家たちの論争」のただ中で、どの教会に加わるべきかを知ろうとした預言者ジョセフ・スミスの経験は(ジョセフ・スミス—歴史1:11)、心から真理を求めるすべての人に靈感と希望を与える話です。14歳の名もない少年ジョセフは、素朴な疑問の答えを知りたいと心から望んでいました。聖書から次の聖句を読んで、ジョセフはどんなにか心強く感じたことでしょう。「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず^あに惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。」(ヤコブの手紙1:5)

この節から、わたしたち一人一人が天の御父とどのような関係を持つべきかについて、深い理解が得られます。確かにこの聖句は、疑問を携えて御自身のもとに来た一人の息子に御父が示された深い憐れみと愛について、実によく表しています。御父は普通、祈りにこたえる際に、聖なる森のときのような示現という方法を用いることはなさらずに、わたしたちの心に慰めや平安を送ってくださいます。それが、とがめもせず^あに惜しみなく与えるという御父の約束なのです。

わたしは少年のころ、この約束を何度か試す機会がありました。わたしは御父の約束が真実であると証^{あかし}します。おもちゃやコインや、その

ほか大人から見れば取るに足りない大切な宝物をなくしたときにも、天の御父はわたしの祈りにこたえ、慰めてくださいました。祈りは必ずこたえられると確信していた当時のことを、今でもはっきりと覚えています。それが少年の信仰なのです。少年ジョセフ・スミスの信仰は、まさにそのような信仰でした。

「ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい」という聖句からも分かるように(ヤコブの手紙1:6)、そのような信仰は祈りの答えを受けるための必要条件なのです。

年齢を重ねるにつれて、わたしは確固とした信仰を働かせることが難しくなることに気づきました。世がわたしたちの心と思いに、疑いと偏見の種を植えるからです。そのため、「幼な子のように」なりなさい(マタイ18:3)という救い主の勧告が、わたしにとって生涯追求すべき課題となりました。「からし種一粒ほどの」信仰(マタイ17:20)に手が届きそうだと感じるときもあれば、はるかに及ばないと感じるときもあります。

どのようにすれば「からし種一粒ほどの信仰」を常に働かせることができるでしょうか。そのような義にかなった努力について、次の聖句から深い理解が得られます。「神から出ているものは光である。光を受け、神のうちにいつもいる者は、さらに光を受ける。そして、その光は



左—「執筆者のジョセフ・スミス・デール・キルボン画。右—「光の子たち」アン・マリエ・オボソ画。教会歴史美術館の厚意による掲載。緑部分／©2007、カリー・ヘリ

ますます輝きを増してついには真昼となる。」
(教義と聖約50：24)

これは、預言者ジョセフ・スミスが一貫して歩んだ道です。ジョセフは昔の預言者のように、絶えず信仰を働かせ、常に選択の自由を正しく使うことによって自分のふさわしさを証明しました。いつも神のうちにあり、さらに光を受け、光がますます輝きを増してついには真昼となったのです。

預言者の人生に起きた出来事の一つが、青年期のわたしに力強い影響を与えました。

「夜が更け、ジョセフは疲れ切った体を横たえ、深い眠りに落ちようとしていました。……あっという間に、激高した一人の暴徒がドアを押し開け、……エマが叫び声を上げる中、数人がジョセフにつかみかかると家から引きずり出しました。

……一団は、協議するために集まりました。

……話し合いが終わると、暴徒の先導者が、ジョセフを殺しはしないが服をはぎ取り裸にしてから袋だたきにして体を痛めつけてやる、と宣言しました。……彼らは、悪臭を放つタールがべっとり付いたへらをジョセフの顔に押し付け、無理やりのどに流し込もうとしました。……

暴徒が立ち去った後、ジョセフは立ち上がろうとしましたが、痛みと極度の疲労から再び倒れ込んでしまいました。それでも、呼吸ができるように、顔に付いたタールを何とかはぎ取りました。……

体を覆うものを手に入れ、預言者は家に入りました。それから一晩かけて、体に付いた汚れを落とし、傷の手当てをしました。……

翌朝は安息日だったので、通常の礼拝の時刻になると人々が集まって来ました。昨夜の暴徒も何人か来ていました。……

ジョセフは全身打ち身と傷だらけでしたが、

「幼 な子のように」
なりなさい
という
救い主の勧告が、
わたしにとって
生涯追求すべき
課題となりました。



ジョセフ・スミスが
聖なる森で
知恵を求め、
それ以後も
熱心に務めを
果たしたからこそ、
わたしたちに
イエス・キリストの
完全な福音が
あるのです。

集会に出かけ、会衆の前に立ちました。穏やかながら堂々とした態度で、前夜の襲撃者たちの方を向いて立ったのです。ジョセフは力強く教えを説き、その日、信仰を持った3人の人にバプテスマを施し教会に受け入れました。』¹

預言者ジョセフが耐えた苦痛や苦悶について、わたしには想像すらできません。彼には翌朝の説教を取りやめる十分な理由がありました。にもかかわらず、このときも、同様の経験をしたほかのときも、あるいはもっと悪い結果が待っていたとしても、責任にしりごみすることはありませんでした。だとすれば、多少の不安や不都合があるからといって、自分の義務にしりごみしてもよいものでしょうか。

信仰と決意を増すなら、わたしたちはさらに天の御父に近づきます。

「また、あなたが呼ぶとき、主は答えられ、あなたが叫ぶとき、『わたしはここにおる』と言われる。』(イザヤ58:9)

「そうするときに、神の前においてあなたの自信は増し、神権の教義は天からの露のようにあなたの心に滴るであろう。

……それは強えられることなく、とこしえにいつまでも、あなたに流れ込むことであろう。』(教義と聖約121:45-46)

わたしにとって、ジョセフ・スミスが神の預言者であると証することは特権です。ジョセフが聖なる森で知恵を求め、それ以後も熱心に務めを果たしたからこそ、わたしたちにイエス・

キリストの完全な福音があるのです。当時十二使徒定員会の一員だったジョン・テラー大管長(1808-1887年)が記した次の賛辞は、預言者ジョセフ・スミスがわたしたちすべてのために行った事柄を雄弁に物語っています。「主の預言者であり聖見者であるジョセフ・スミスは、ただイエスは別として、この世に生を受けた他のいかなる人よりも、この世の人々の救いのために多くのことを成し遂げた。……彼は神とその民の目に偉大な者として生き、偉大な者として死んだ。そして、昔の、主の油注がれた者のほとんどがそうであったように、彼は、自らの血をもって自分の使命と業を証明したのである。』(教義と聖約135:3)

どのような境遇にあっても、預言者ジョセフ・スミスのように選択の自由を常に賢明に使い、揺るぎない信仰を働かせることによって、わたしたちの自信が「神の前に増」しますように。■

注

1. ジョージ・Q・キャノン, *Life of Joseph Smith the Prophet* (1986年), 133-135. *History of the Church*, 第1巻, 261-264も参照

降り注ぐ祝福!



あなたに注がれている数々の祝福に気づき、
感謝をもって味わいましょう。
(教義と聖約 105: 12 参照)

インスティテュートを通して 魂を養う

インスティテュートは、学生が友人を作り、優先順位を決めるのに有益であり、彼らが天の御父ともっと密接な関係を築くよう助けることによって、証を強め、生活を変えます。

証を強める

わたしはインスティテュートで学べる事柄に驚嘆することがよくあります。何か新しいことを学んだり、福音の原則をより深く理解したりすることなくクラスを後にした覚えが、これまで一度もありません。その結果、わたしの生活は変わりました。

インスティテュートは、福音を学び、ほかの末日聖徒と友情を築く最良の場所です。

インスティテュートに出席して得た多くの祝福の中には、家族関係がより良くなったこと、これまで以上に聖文に興味を持つようになったことなどがあります。インスティテュートは、また、わたしの証をさらに強めてくれました。インスティテュートに出席する前には、伝道に出たいかどうか確信が持てませんでした。今では、宣教師として働くことが自分にとって必要なことだと知っています。

インスティテュートはこれまでずっと素晴らしい経験でした。教会の標準を理解し、それに従うよう助けてくれるものでした。教会の教義は救いと昇栄を得るための架け橋です。教義についてインスティテュートで今も学べることに感謝しています。

メキシコ、アルベルト・アビレス・ロドリゲス





目標を改める

ある日曜日、わたしは聖餐会^{せいさん}でインスティテュートについて語る話者の言葉に熱心に耳を傾けていました。話者は十二使徒定員会のL・トム・ペリー長老の言葉を紹介してくれました。「[インスティテュートの]おかげでわたし自身の生活も豊かになりましたし、また、皆さんの生活も同じように豊かになることを知っています。このプログラムにより、皆さんの周りには守りの盾ができて、世の誘惑や試練から身を守ることができるようになります。」¹ そのときわたしは、ペリー長老の言葉が真実であることは、わたし自身にすでに実証されていることに気がつきました。インスティテュートに出席したおかげで受けてきた祝福に、とても感謝しました。

その少し前から、わたしはイザヤの教えに関するインスティテュートのクラスに出始めていました。そのクラス以上にわたしの生活を変えたクラスは、今日^{こんにち}に至るまでほかにありません。その学期中、ずっと心に葛藤^{かっとう}を抱えていました。目標や優先順位の中に、福音の原則に即していないものがあったからです。それでもわたしはいつもインスティテュートに出席し、インスティテュートの教師と一対一で教会の教義について何度も話し合いました。やがて考えが変わり、目標を徐々に、注意深く、主がわたしのために立てられた計画に合わせて変えました。

この新たな目標がわたしをどんなに祝福しているか、あの日曜日の聖餐会でペリー長老の引用を聞くまで、はっきり理解していませんでした。インスティテュートに出席するとき、生活^{みたま}のあらゆる面が目に見えて改善しました。以前よりもっと御霊を感じるようになり、誘惑に屈することがはるかに少なくなりました。振る舞いや物の見方も、インスティテュートに出席することで大いに改善されたのです。

アメリカ合衆国アリゾナ州、クリスタ・レン

注

1 . L・トム・ペリー「真理を受け入れる」『リアホナ』1998年1月号、68



預言者の約束

「セミナリーやインスティテュートをおろそかにしないでください。クラスに出席し、このすばらしい宗教教育の場で教えられる聖文から、できるかぎり学んでください。それによって、皆さんが会おう人々に、回復された福音のメッセージを伝える備えができるでしょう。」

十二使徒定員会 L・トム・ペリー長老
「バーを上げる」『リアホナ』2007年11月号、48

信仰を表す

わたしはセミナリーの生徒だったころから、インスティテュートにあこがれていました。わたしは14歳で教会に加わり、福音の知識を渴望していました。福音について学ぶことに喜びを感じ、学ぶ機会を通して出会ったすばらしい友人や教師が大好きでした。

セミナリーに出席するのは時々大変でした。家族は教会員でないため、わたしがセミナリーに出席することに協力的ではありませんでした。でも、ほかの末日聖徒の助けを受けて、早朝セミナリーに行くことができました。家族は、わたしが真剣に教会に集まっていることを理解するようになりました。これはわたしにとって2マイルの精神を实践する機会となりました。

セミナリーのおかげですばらしい10代の時を過ごせたように、インスティテュートも、わたしのヤングアダルトとしての生活を豊かにしてくれています。わたしは、キリストの言葉



インスティテュートは、通常18歳から30歳までの
独身あるいは既婚の学生を対象としています。

新しい友達を見つける

伝道から帰って数年後、わたしはだれも知り合いのいない町に引っ越しました。それまでと同じように、インスティテュートに通い、新しい友達を見つけ、その地域のヤングシングルアダルトの仲間を作ろうとしました。

でも、初めはなかなかうまくいきませんでした。だれも不親切だったわけではないのですが、友情に進展する様子もなく、前から知っている仲間同士の中に溶け込めないまま、寂しい思いをすることもありました。それとは反対に、教会外では、すぐにいい友達ができました。

インスティテュートに行かない方が楽なのではないかと思えることもありました。交通手段がなかったので、毎週歩いたり、自転車に乗ったりして通っていました。ほかの場所では、似たような興味を持つ友達が見つかりました。それに、わたしはもうインスティテュートを卒業していたのです。

しかし、インスティテュートに行かない理由について一つ一つ考えていると、これまでインスティテュートで学んだレッスンや、知り合った友人のおかげで、自分がどれだけ成長してきたかを思い出しました。インスティテュートのおかげで証がはぐくまれ、主がわたしのために用意してくださった計画をもっとよく理解できるようになりました。わたしは、インスティテュートに行き続けることにしました。今ではそう決めたことを喜んでいますが、その年の間に、少しずつインスティテュートで良い友達ができました。様々な活動にも誘われるようになり、時間が経つにつれて、もっと深くかわかるようになりました。

を心と思い大切に蓄えてきました(教義と聖約6:20;84:85参照)。これらの教えは、宣教師として主にさらに効果的に仕える助けとなりました。

インスティテュートに感謝しています。インスティテュートがわたしやほかの人たちの生活にもたらした祝福を見てきたので、わたしはこのプログラムが靈感を受けたものであると知っています。

オーストラリア、西オーストラリア州、マリンダ・モリソン

さらに主に近づく

インスティテュートに定期的に出席するようになってから、霊的な祝福を驚くほど受けてきました。インスティテュートのクラスメートたちにキリストのような愛を持てるようになり、主への信仰も強くなり、聖文研究を通じてイエス・キリストにさらに近づきました。

授業を通して選択の自由を正しく使う方法が深く理解でき、導きが得られました。授業はまた、前向きな姿勢で問題に取り組む助けにもなりました。神はいつでもわたしのそばにいて、試練を克服できるよう助けてくださることが分かりました。インスティテュートに出席するときは、いろいろな疑問の答えが見つかります。クラスで学んだ教えを実践する度に、日常の様々な事柄がもっと簡単に解決していくように思えます。

わたしにとって、インスティテュートに出席することは、若い時期の最も有効な時間の使い方の一つだと言えます。

ナイジェリア、アビア、ヌゴツィチ・オクワンドゥ



最初、新しい場所でインスティテュートに通うのは大変でした。それでも、とにかく通い続けたおかげで、霊的な面でも社交の面でも別の方法では得られない多くの祝福を受けることができたのです。

イギリス、イングランド、デーブ・J・グリーン



アルベルト



クリスタ



マリンド



ヌゴツイチ



デーブ



スザンヌ

家路

両親が別居したのは、わたしが初めて家を離れて生活していたときでした。大学に入ってまだ1か月足らずで、しかも家族の生活ががらりと変わったため、わたしは家庭という言葉の意味を理解しようともがいていました。両親が離婚し、それまでわたしが18年住んできた家から家族全員が出て行ったとき、わたしは特にうろたえました。自分がホームレスでないのは分かっていたのですが、まさにそのように感じました。

教会が「嵐^{あらし}〔から〕の避け所」と呼ばれるのを何度も耳にしたことがあります(教義と聖約115:6)。人生のこの新たな嵐と闘う中で、インスティテュートはその避け所となりました。わたしはインスティテュートに登録しました。レッスンで語られた正確な言葉は覚えていませんが、レッスンを聞いているときに感じた平安と慰めは決して忘れないでしょう。わたしは、天の御父が自分に抱いてくださっている愛を見だし始めました。そして、だれよりもすばらしい相談相手であるイエス・キリストをさらによく知ることができました。

大学は学費を自分で出さなければなりません、無料で受けることのできるインスティテュートのクラスから、最も価値あるレッスンを学んでいます。今わたしは、家庭とは、生まれ育った家に限らず、人生のレッスンを学ぶことのできる、愛にあふれた場所であると分かりました。学んだことや感じた御霊^{みたま}のおかげで、インスティテュートはわたしにとって第二の我が家となりました。愛され、歓迎されていると感じる場所があるのは、何とすばらしいことでしょう。■

アメリカ、ユタ州、スザンヌ・ゴープル

最寄りのインスティテュートプログラムを、どのようにして見つけたらよいでしょうか。

<http://institute.lds.org> にアクセスしてください。世界中に500以上あるインスティテュートの実施場所すべてについて情報を得ることができます。多くの場合、インターネットを通じてクラスに登録することもできます。

インターネットを利用できない場合もあるでしょう。そのような場合でも、地元のビショップまたは支部会長が、インスティテュートを開いている場所のリストを持っています。



最 も 役 立



北アメリカ北東地域

地域七十人

クレートン・M・クリステンセン長老

オックスフォード大学に詳しい人は、それが世界で最も古い大学だということを知っていることでしょう。学生時代にわたしが住んでいた建物は、1410年に建てられたもので、見かけは美しかったです。住み心地がいいとは言えませんでした。オックスフォードに着いたとき、教会の活発な会員であり続けるのは簡

単ではないだろうと思いました。わたしはローズ奨学金を受けていたのですが、その奨学金を受けている学生にはたくさんの活動が用意されていました。

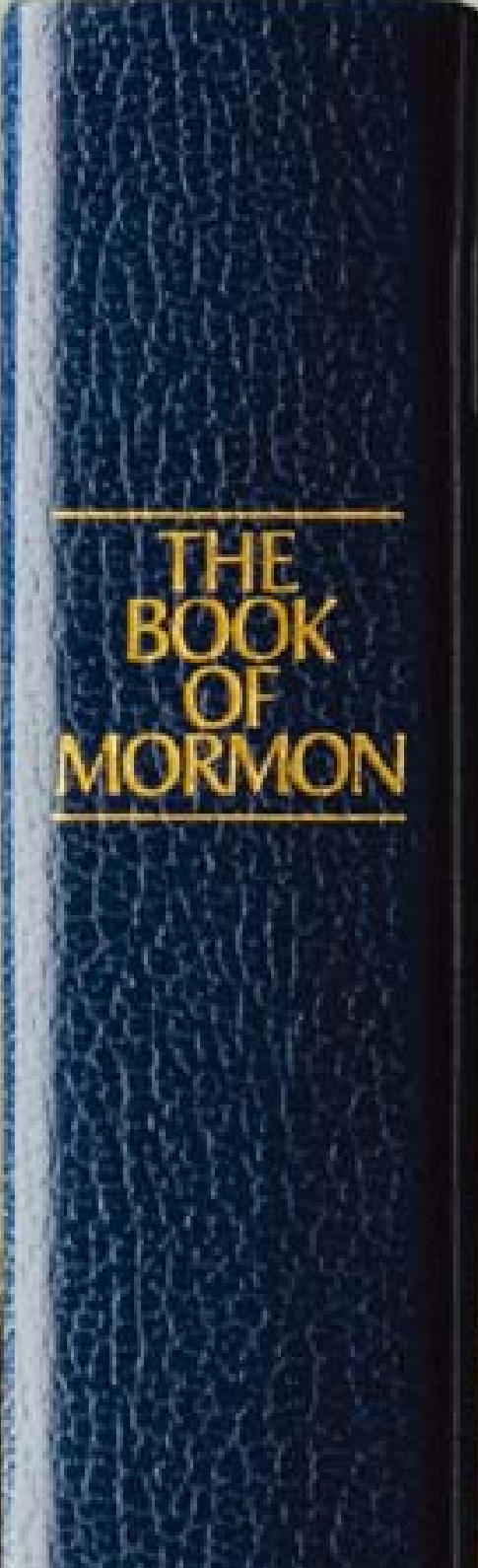
どれだけ教会に熱心でいたいだろうかと考えたとき、自分はモルモン書が真実であることをまだ知らないということに気づきました。それまでも何度か読んだことはありましたが、たいていは両親やブリガム・ヤング大学の先生から宿題として出されて読んだのでした。でもオックスフォードでの生活を始めるに当たり、モルモン書が真実かどうかを知る必要があると心の底から感じました。そこでわたしは、モルモン書が真実かどうかを知るために、毎晩11時から12時まで読もうと決心しました。

応用経済学を学び、とても難しい研究プログラムに参加していたので、そんなに時間が取れるだろうかという思いもありました。多くの人が3年かかって終えるプログラムを2年で終えようとしていたのです。ほんとうにそのために毎日1時間という時間を割けるかどうか、分かりませんでした。

それでもわたしは実行しました。11時になると、石壁に埋められた小さなヒーターのそばにひざまずき、声に出して祈ってから始めました。わたしは神に、モルモン書が真実かどうか知りたいと心の底から願って

皆さんに勧めます。
モルモン書が
真実かどうかを
自分自身で
知ることができるように、
毎日1時間を取ってください。

つ 知 識



THE BOOK OF MORMON

いることを打ち明けました。もしもそれが真実であることを明らかにしてくださるなら、神の王国を築くために人生をささげるつもりであることを話しました。もし真実でないなら、人生をかけて何が真実かを見つけたいので、それもはっきりと知る必要があることを話しました。

それから、モルモン書の最初のページを読みました。そのページの最後まで来たとき、いったん読むのをやめました。そのページに書かれていたことについて考え、自分自身に問いかけました。「これはペテン師が人々をだまそうとして書いたものなのか、それともほんとうに神の預言者によって書かれたものなのか。また、わたしの人生で、わたしにとってどのような意味があるのだろうか。」それから本を置き、ひざまずいて祈り、神にもう一度願い求めました。「これが真実の書物かどうかをわたしに教えてください。」そしてまた、いすに座って本を手に取り、ページをめくって読み、そのページを読み終えると、同じことを繰り返しました。オックスフォードの寒く、じめじめした部屋で、毎晩これを続けたのです。

ある晩、第2ニーファイの終わりの方の章を読んでいた。祈ってからいすに座り、モルモン書を開きました。すると突然、麗しく、温かく、愛にあふれた御霊が部屋の中に流れ込んでわたしを取り囲み、心を貫き、想像もしなかったような愛の気持ちで包んでくださいました。わたしは泣き始めました。涙にぬれた目でモルモン書の言葉を読みながら、以前は自分に理解できるなどと想像もしなかった言葉の中に真理を見いだすことができました。永遠に続く栄光を目にすることができ、神の息子の一人であるわたしのために神が備えてくださっているものを見ることができました。その時間中、御霊がともにいてくださいました。そして、

より高い教育を
追求する中で、
わたしたちが
学ぶことのできる
最も価値ある
事柄の一つは、
モルモン書が
神の言葉であることを
自分自身で
知ることです。



一日おきに自分の部屋で祈り、モルモン書を読むとき、御霊がともにいてくださるのを感じました。常に、そのときと同じ御霊が訪れてくださり、わたしの心と人生とは永遠にわたって変わりました。

モルモン書が真実かどうかを知るために、応用計量経済学の勉強の合間に毎日1時間も取ることができるのだろうかという思いと闘っていた日々を思い返します。応用計量経済学を実際に使うのは、恐らく年に1度くらいですが、モルモン書が神の言葉であるという知識は、日々の生活で何度も使っています。それは、これまで受けてきたすべての教育の中で、最も役立つ知識です。

まだほかの人の証に頼って生活している皆さんに勧めます。モルモン書が真実かどうかを自分自身で知ることができるように、毎日1時間を取ってください。それによってわたしの人

生が変わったように、皆さんの人生も変わるでしょう。そしていつの日か、^{ほんりよ}伴侶や子供たちを連れて、神からその知識を受けたときに住んでいた場所を訪れ、指さして、「ここはわたしにとって、とても神聖な場所なんだ。ここでイエスがキリストであることが分かったんだよ」と話すことができるでしょう。

自分の召しを尊んで大いなるものとし、イエス・キリストを知ろうと探し求めたので、わたしは確かに、イエス・キリストが神の御子であり、生きておられることを証することができます。わたしは確かに、イエスがわたしたち一人一人を知っていて愛しておられることを知っています。■

2004年6月8日、ブリガム・ヤング大学アイダホ校で行われたデイポーショナルでの説教から。英語の全文を読みたい方は、www.byui.edu/Presentations/transcripts/devotionals/2004_06_08_christensen.htm を参照してください。

信仰において 力強く揺るぎなくありなさい



訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や言葉を教えてください。その教義について証^{あかし}してください。あなたが教える人々に、感じたことや学んだことを分かち合うように勧めてください。



モーサヤ5:15——「確固として揺らぐことなく、いつも多くの善い行いをして、全能者である主なる神、キリストから御自分のものとして印を押されるように、また天に招き入れられて、永遠の救いと永遠の命にあずかるようにしてほしい。」

どうしたら信仰において力強く揺るぎなくあることができますでしょうか。

3ニーファイ6:14——「真実の信仰に帰依している少数のレーマン人の中の教会を除いて、全地の教会が分裂してしまっただ。この少数のレーマン人は堅く確固として動かず、喜んで力のかぎり主の戒めを守っていたので、真実の信仰から離れようとしなかった。」

中央扶協協会会長 ジュリー・B・ベック——「末日聖徒の女性は、信仰において力強く確固としていなければなりません。主イエス・キリストと主の回復された福音についての証を生活に生かすこと、また伝えることにおいて優れた者となることができますし、またそうすべきです。そのために、次の事柄を行います。

1. 主と聖約を交わして守る。
2. 神殿に入るふさわしさを身に付け、神殿で礼拝する。
3. 聖文や預言者の言葉から主の教義を研究する。
4. 聖霊を受けるふさわしさを備え、その声を聞き、従う。
5. 主の福音を伝え、擁護する。
6. 個人や家族で心から祈る。
7. 家庭の夕べを行う。
8. 自立および賢明な生活の原則を実践する。

これらは最も大切な事柄であり、ほかのなくとも済む事柄よりも優先して行わなければなりません。そのような行いは、平凡で単純に見えるかもしれませんが、欠かすことができません。……代わりに^{おこな}行ってくれる人はいません。これらは個人個人の行動、習慣であり、正しいことのために力強く確固としている者としてわたしたちを際立たせます。」「(『末日聖徒の女性が秀でている事柄——力強く確固として立つ』『リアホナ』2007年11月号, 109-110)

中央初等協会会長 チェリル・C・ラント——「主がお望みになる生き方、

すなわち、自分の都合に合う戒めだけでなく、すべての戒めを守ることに、確固として揺るぎない生活を始めることにより、わたしたちは改心することができます。昨日よりも少しい日にしようと毎日努力するなら、わたしたちは精錬され……ていくのです。」「(『義にかなった伝統』『リアホナ』2008年5月号, 13)

信仰において力強く確固としていなければならないのはなぜでしょうか。

十二使徒定員会会員 M・ラッセル・バラード長老——「回復された福音に対する証と知識から、主と交わした聖約に忠実であろうとする強さが得られます。さらに、この地上に神の王国を築くために自分に与えられた力や才能を分かち合おうとする強さも増し加えられます。イエス・キリストに対する証は、最も重要な^{いかり}錨であり、将来どんな試練や誘惑が来ようとも、義の原則に力強く確固としていられるように助けてくれるのです。」「(『Steadfast in Christ,』Ensign, 1993年12月号, 52)

十二使徒定員会会員 リチャード・G・スコット長老——「主に完全に従順であろうと決意することで生涯に達成できることがどれほどたくさんあるか、今の時点ではほとんど想像もつかないでしょう。義にかなった生活をするという静かな、しかし揺るぎない決意は、わたしたちの能力を超えた^{いかり}靈感と力をもたらします。」「(『人生の正しい決断』『聖徒の道』1991年7月号, 35)■

川を渡る信仰

「主は高い所からみ手を伸べて、
わたしを捕え、大水からわたしを引きあげ、
わたしの強い敵……から
わたしを助け出されました。」(詩篇18:16-17)

教会機関誌

アダム・C・オルソン

ラファエル・マテオと、(ワリーの愛称で親しまれている)息子のワリンコンは、暗い嵐の午後、立ち止まって、雨で増水した川がすさまじい勢いで流れて行くのを見詰めていました。支部会長会の第一顧問であるラファエルと、支部長老定員会会長であるワリーは、ドミニカ共和国のサンホセ・デ・オコア支部の日曜日の集会に出席して、帰宅する途中でした。

土砂降りの中を歩いてきた二人は、すでにびしょぬれで、これから、オコア川を渡ろうとしていました。礼拝堂から家までの道のりに横たわるオコア川は増水して、危険な障害物になっていました。乾季には、谷の一方に建つ礼拝堂から、もう一方の高台にある家までの6キロ(4マイル)の道のりは、1時間で歩くことができます。でも、雨季になり川が増水すると、ラファエルと家族は、より安全に川を歩いて渡れる所を見つけて遠回りするため、15キロ(9マイル)の道を3時間かけて歩かなければなりません。

ラファエルは幾度となくその道のりを歩いてきました。彼は12年間毎日川を渡って仕事に通いました。バプテスマを受けて2か月後に支部会長に召され、6年間その務めを果たしましたが、その間、この道を歩く回数は増えました。その後、長老定員会の会長に召され、再び支部会長に召されたのです。

でも、慣れているからといって、川が危険であることには変わりありません。ましてや、増水して流れが速くなると、下流の大河と同じくらい命を落とす危険性が高くなります。少し前に、ある隣人が氾濫した川で足をすくわれ、川幅の狭い部分まで流され、濁流にのまれて亡くなったばかりでした。

父のラファエルと息子のワリーは渡るのをためらって水際に立っていましたが、ついにラファエルが足を踏み入れました。川幅は広くはありません。しかし、大量の水が底を削ったため、川は驚くほど深くなっていました。冷たく、流れの速い水は、最初はひざの辺りでしたが、すぐに腰の高さになり、つい

に胸にまで達しました。

ラファエルは、自分が危険な状況にあることが分かりました。川底はでこぼこで滑りやすく、絶えず流れに体を押され、足がすくわれそうになります。川の半分まで来たところで力を使い果たし、立っているだけで精いっぱい、前にも後ろにも動けなくなってしまいました。

もう耐えられないと感じたとき、ラファエルは背中が押されるのを感じ、そのまま向こう岸までぐいぐいと押しやられました。岸辺に着いて初めて、背中を押してくれたのはワリーでなかったことが分かりました。ワリーはまだ反対側の岸辺にいたのです。

ラファエルは、自分を救ってくださったのは、これまでも肉体的、霊的な試練を切り抜けさせてくださった救い主であると信じています。

「主の召しを果たすために、これまで何度も胸までつかるような川に入って行きました。」マテオ兄弟はそう言います。「でもわたしは、主から大きな恩を受けています。主は、仕える機会だけでなく、堪え忍ぶ機会も与えてくださいました。」

マテオ兄弟は、ダビデ王が語った次の言葉のように、救い主が「高い所からみ手を伸べて、わたしを捕え、大水からわたしを引きあげ、わたしの強い敵……からわたしを助け出され」たことを知っています(詩篇18:16-17)。

そのような証があるので、あの嵐の午後、ワリーと渡った川ほど明白でなくとも現実に存在する数々の試練を、乗り越えていくことができるのです。

神殿までの交通費が高額であるにもかかわらず、マテオ兄弟は妻のアルタグラシアと3人の子供とともに2001年に神殿に行き、結び固められました。以来、彼らは少なくとも年に2回神殿に行けるように、犠牲を払って貯金してきました。

そのために必要な物心両面での努力や犠牲は、マテオ兄弟にとって何でもありません。

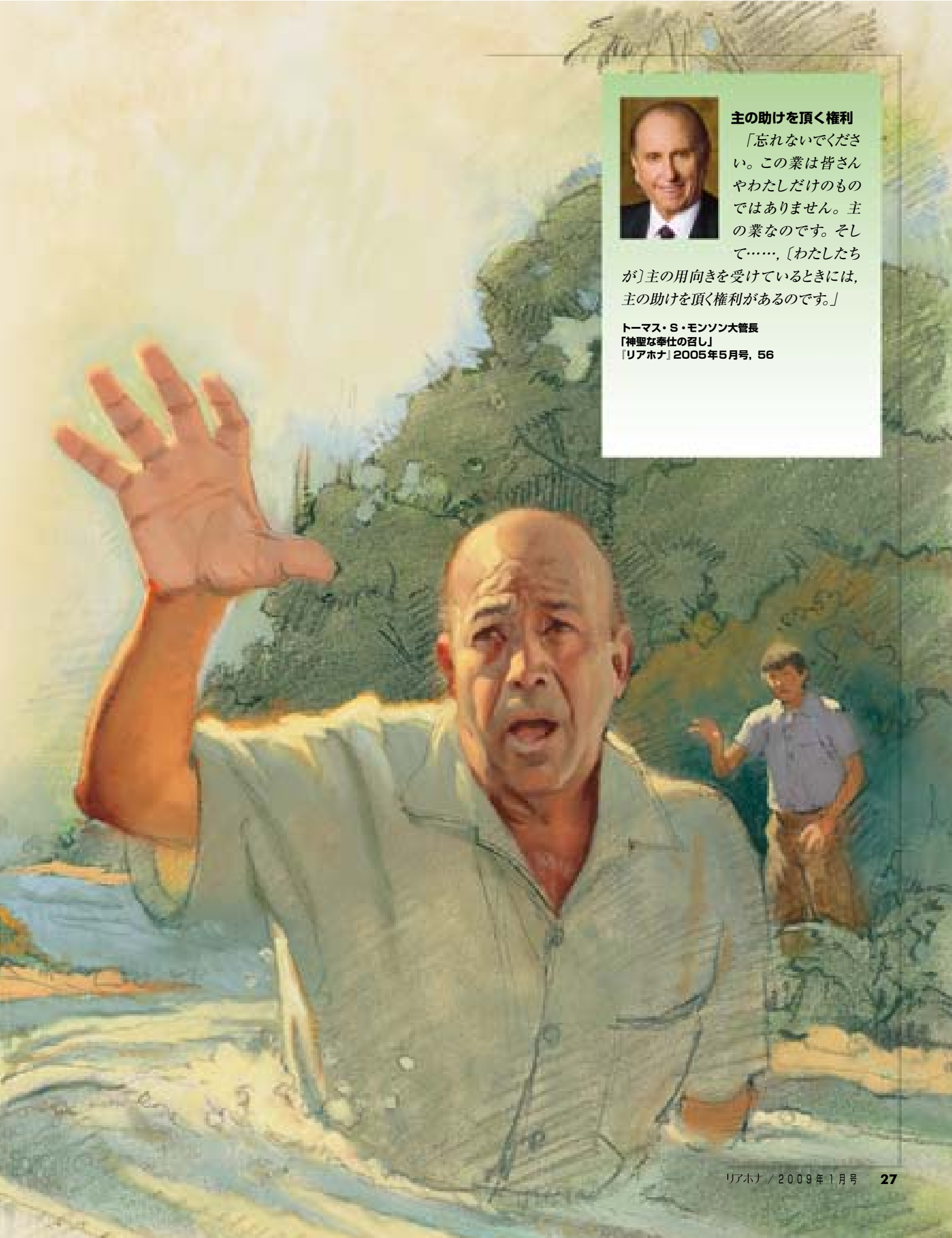
「目的を理解しているので、大変だとは思いません」と彼は語ります。「わたしたちは、この世のものよりも崇高な目的のために闘っているのです。」■



主の助けを頂く権利

「忘れないでください。この業は皆さんやわたしだけのものではありません。主の業なのです。そして……、[わたしたちが]主の用向きを受けているときには、主の助けを頂く権利があるのです。」

トーマス・S・モンソン大管長
「神聖な奉仕の召し」
「リアホナ」2005年5月号、56





ジョセフ・スミス

——イエス・キリストの使徒

七十人

デニス・B・ノイエンシュワンダー長老

教義と聖約には、ジョセフ・スミスは「神から召されて、イエス・キリストの使徒に聖任され[た]」とあります(教義と聖約20:2)。使徒の召しの第1の責任はイエス・キリストについて証する、つまり証言することです。旧約聖書の預言者はキリストの降臨を証しました。新約聖書の使徒たちは、キリストが実在され、復活が確かな事実であることについて自らの体験を基に証言しました。そのような証が、彼らの使徒としての教への土台でした。「あなたがたは……わたしの証人となるであろう。」イエスは最初の使徒たちに、そうお教えになりました(使徒1:8)。五旬節の日、ペテロは「あらゆる国々から」(使徒2:5)集まったユダヤ人に、「このイエスを、神はよみがえらせた。そして、わたしたちは皆その証人なのである」と証しています(使徒2:32)。同じように、パウロもコリント人に、イエスは「わたしにも、現れた」と書き送りました(1コリント15:8)。キリストが実在されること、実際に復活されたことに対する確固とした証は、使徒の証の第1の柱です。

第2の柱となるのが、救い主の贖いと救いの力についての証です。ペテロは次のように教えています。「預言者たちもみな、イエスを信じる者はことごとく、その名によって罪のゆるしが受けられると、あかしをしています。」(使徒10:43)

キリストに関するこの2本柱とも呼ぶべき証がなければ、使徒は存在できません。このような証は、経験と、神の導きと、教育から生まれ

ます。例えばルカは、キリストが使徒に御姿を現されたことについて書いています。「イエスは苦難を受けたのち……四十日にわたってたびたび彼らに現れて、神の国のことを語られた。」(使徒1:3)

では預言者ジョセフ・スミスは、これら使徒の資格をどれほど持っていたのでしょうか。答えは、「完全に」です。

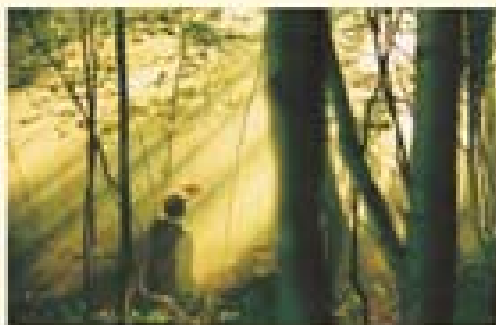
最初の示現

ジョセフ・スミスが使徒となるための教育は1820年に始まりました。宗教上の疑問を深く考えていたジョセフは、やがて、様々な教会の教義の正当性について権威者がどのような結論を下し、人々がどのような意見を持ったとしても、それが正しいことを証明できないということに気づきました。神の現れを受ける前の若いジョセフにできたことといえば、すでに起きていた「言葉の争いと見解の騒動」に、別の新



預言者

ジョセフ・スミスは、
キリストの
実在と復活の証人、
またキリストの贖いと
救いの力の証人として
神から召されました。



父なる神と、
生ける
神の御子
イエス・キリストが
直接、肉体をもって
現れられたことにより、
宗教に関する
ジョセフの疑問は
答えられました。

たな意見を加えるくらいのことでした(ジョセフ・スミス—歴史1:10)。しかし、父なる神と、生ける神の御子イエス・キリストが直接、肉体をもって現れられたことにより、宗教に関するジョセフの疑問は答えられました。これが最初の示現と言われる経験です。

イエスの時代の使徒たちと同じように、ジョセフは神と直接交わりました。ジョセフの見たものが何であったか、それが彼にとってどのような意味を持ったかについて、人の意見や、宗教会議

の審議は必要ありませんでした。ジョセフが受けた示現は一つの質問に対する答えであって、初めはまったくの個人的な経験にしかすぎませんでした。しかし時がたち、出来事や教えが加わるにつれ、やがて最初の示現は回復を支える啓示であることが明らかになりました。

復活されたキリスト御自身にまみえたことは、ジョセフ・スミスを使徒とするのに十分な出来事でしたが、イエスがジョセフに教えようとしたのはそれ以上のことでした。少年ジョセフ



に対する最初のレッスンは、キリストの絶対的な力、全能の力、神としての力が表れたときに行われました。ジョセフは森で祈ったときに、キリストの贖いと救いの力について、少なくとも一つの意味を、直接学んだのです。祈り始めると、「深い闇がわたしの周囲に集まり、一時はあたかも突然の滅びを宣告されたかのように思われ」ました(ジョセフ・スミス—歴史1:15)。ジョセフはあらん限りの力を振り絞り、この敵の手から解放されるよう神に呼び求めました。

「すると、わたしが今にも絶望し、破滅に身を任せようとしたその瞬間……、わたしは……光の柱を見た。……」

それが現れるやいなや、わたしはわが身を縛った敵から救い出されたのに気づいた。」(ジョセフ・スミス—歴史1:16-17)

ジョセフ・スミスがサタンと対峙したこの出来事は、モーセが経験した出来事をほうふつさせますが、モーセの経験について預言者ジョセフが知るのとは、それから数年後となります。少年ジョセフ・スミスの場合とは異なり、モーセはまず神の偉大さを知ってから、その後でサタンの力に直面し、そして最後にその力から解放されます。(モーセ1章参照)

この順序の違いには重大な意味があります。モーセはあの出来事を経験した時点ですでに成熟しており、知識も影響力も十分持っていました。主はモーセがサタンと相対する前に御自分の偉大な力をお見せになり、モーセが自分の人生について正しく理解できるようにされたのです。神の栄光を見たモーセは言いました。「今これで、わたしは、人は取るに足りないものであることが分かった。このことは、思ってもみないことだった。」(モーセ1:10) この出来事があったために、モーセはその後に起こるサタンの誘惑に耐えることができたのです。

一方ジョセフ・スミスは経験の浅い若者でした。ジョセフはこれからの人生で、幾度となくサタンの力に立ち向かい、サタンの力による圧倒されるような試練に何度も直面するのです。サタンに直面し、その攻撃を受けた後で御父と御子の現れによって救われたことにより、ジョセフは永久に忘れられない教訓を得ました。いかに強大な悪の力であっても、義の前からは立ち去ることしかできないという教訓です。

それは将来使徒になる者として備えられるために、ジョセフに必須の教訓でした。将来の個人的な試練に備えるためだけでなく、教会を設立し導く過程で直面する途方もない反対勢力に立ち向かううえで、ジョセフにとって必要となる知識でした。

少年ジョセフは知恵を求めて森へ入り、知恵を得ました。使徒となるための教育が始まったのです。最初の示現の中

に、使徒になるために必要な重要な教えが含まれていました。とりわけ、救い主と天の御父の肉体的な特質に関する教えと、御二方の力に関する最初の基本的な教えが含まれていました。どちらも使徒として欠かせない柱となる証です。

モルモン書

ジョセフ・スミスが使徒になるための初期段階の教育は、モルモン書の翻訳とともに続きました。モルモン書は、ジョセフが「完全な永遠の福音」、つまり、教会を組織するに先立って理解すべき原則を知る手段でした(ジョセフ・スミス—歴史1:34)。預言者ジョセフは、預言者や使徒たちが述べた救い主に関する多くの「分かりやすく大変貴い」証を知りました。そしてそのすべてが彼にとって手本となりました(1ニーファイ13:26)。

実際、モルモン書の預言者たちはキリストについての教えの中で、100を超える称号を使っていますが、これらはジョセフが救い主の神聖な役割を理解するために役立ちました。¹ このような教育のおかげでジョセフ・スミスは古代の預言者たちをよく知るようになり、自らの責任の神聖な目的について洞察を得ていきました。

モルモン書はキリストの贖いが普遍であることを明らかにしています。救い主の聖なる犠牲の効力は、主が生きておられた時代の聖地の中だけにとどめられるものでも、最初の十二使徒が伝道した地域に限定されるものでもありません。贖いの効力は、過去、現在、未来の、神のすべての創造物に及びます。ヤコブが教えた「無限の贖罪」の教義は、特に当時のキリスト教の対照的な教えを知っていた若いジョセフの心に、どのような印象を与えたのでしょうか(2ニーファイ9:7)。

モルモン書はまた、復活と復活に関するほかの教義の普遍性についても教えています。この教義に関するリーハイ、ヤコブ、ベニヤミン王、アビナダイ、アルマ、アミュレク、レーマン人サムエル、モロナイの説教は、偉大な教師の役割を果たしてくれます。

さらに、モルモン書を翻訳している間、預言者ジョセフは、キリストの贖いと救いの力に関し、さらに貴重な教えを直接受けました。1828年、マーティン・ハリスはジョセフ・スミスに説得し、116ページに及ぶモルモン書の原稿を借りました。マーティン・ハリスが原稿を紛失したとき、預言者は絶望感に打ちひしがれました。² ジョセフの母親ルーシー・マック・スミスは、ジョセフが次のように叫んだと書き残しています。「ああ、神よ！……全部失ってしまいました。全部です。どうしたらよいのでしょうか。わたしは罪を犯しました。神の怒りを

モ

ルモン書は「わたしたちの宗教のかなめ石」です。なぜならモルモン書にはキリストに対する預言者の証が数多く載っており、回復の目に見える証拠でもあるからです。

招いたのはわたしです。……もう主の御前みまえに出ることなどできません。いと高き神の天使からどのような叱責しっせきを受けても当然です。」³

それから1か月以上、激しい自責の念に苦しむジョセフを主はそのままにしておかれました。⁴ その後で慰めを受け、使徒に必要な教訓を得たのです。主はジョセフに言われました。

「神の業と計画と目的がくじかれることはあり得ず、またそれらが無に帰することもあり得ない。……

たとえある人が多くの啓示を受け、多くの力

ある業を行う力を持つとしても、もし自分の力を自慢し、神の勧告を無視して、自分の思いと肉の欲望が命じることに従うならば、彼は必ず落ちて、公正な神の報復を自分に招くであろう。」(教義と聖約3:1, 4)

この御言葉みことばは、ジョセフ・スミスが何を経験していたかをよく表しています。使徒の召しにはどれほど厳しい要求が伴うか、また、使徒がどのような代価を支払ってでも忠実であるべき御方はどなたであるかを、ジョセフは学びました。ジョセフはこう告げられました。「たとえ人々が



「神の賜物と力にうて」サイモン・デュレイ画

神の勧告を無視し、神の言葉を軽んじて、それでも、あなたは忠実でなければならなかった。」(教義と聖約3:7-8) ジョセフ・スミスはしばらくの間版を手にする事ができずに行きました。そして、非常に貴重な教訓を得たのです。その後、版は戻され、ジョセフの翻訳者としての職も回復されました。

モルモン書の翻訳を通して得た教訓は、ジョセフ・スミスが使徒の召しにおいて成長するうえで何と貴重なものだったことでしょう。モルモン書は「わたしたちの宗教のかなめ石」⁵です。なぜならモルモン書にはキリストに対する預言者の証が数多く載っており、回復の目に見える証拠でもあるからです。

啓示と聖文が引き続きもたらされる

1829年にモルモン書の翻訳が完了し、1830年に教会が組織された後も、ジョセフ・スミスはほかの聖文を翻訳し、それを通じて引き続き使徒としての教育を受ける機会を得ました。その翻訳の業には、3年を要した聖書の翻訳と、1835年に開始したアブラハム書の翻訳が含まれていました。聖書を翻訳することでジョセフ・スミスは、旧約聖書の預言者と、新約聖書の使徒たちの役割に対してさらに理解を広げました。聖書の翻訳を通して、もう一つの啓示がもたらされました。それがモーセ書です。

モーセ書のおかげで、預言者は救い主の働きについて重要な知識を得ました。その中には、創造の業における救い主の役割も含まれます。「さて、主はモーセに語って言われた。『……わたしは初めであり終わりであり、全能の神である。わたしの独り子によって、わたしはこれらのものを創造した。』」(モーセ2:1) 主はさらに言われました。「無数の世界を、わたしは創造した。……子によって、わたしはこれらを創造した。子とは、わたしの独り子のことである。」(モーセ1:33)

モーセ書は、前世におけるキリストと御父との関係を明らかにし、この書を通じて預言者は義が持つ優れた力を深く理解しました。モーセ書を通じてジョセフ・スミスが受けた、使徒としてのあらゆる教えの中で最も美しい教えの一つは、神の愛を確認するものでした。それは当時多くの人が信じていた教え、すなわち神は無慈悲で、赦すことをなさらず、裁く御方であるという教えとはまったく異なっていました。モーセ書は神が無限の哀れみをお持ちの御方であることを明らかにしたのです。エノクは神を受け入れようとしない人々のために「天の神が……泣かれた」のを見ます(モーセ7:28)。エノクは神に、どうして泣くことがおできになるのか知ることを願い、答えが与えられました。聖書で耳にしたことがある答えです。

「わたしは……互いに愛し合うように、また父であるわたしを選ぶようにという戒めも与えた。……これらが苦しむのを見て、どうして天が泣かないということがあろうか。」(モーセ7:33, 37。申命6:5;レビ19:18;マタイ22:37-39も参照)

モーセ書の翻訳を通して預言者は、救い主の贖いと救いの力についてさらに理解を深めていきました。主が言われたように、この地球は「わたしの力の言葉によって」(モーセ1:32)、「人の不死不滅と永遠の命をもたらす」(モーセ1:39)ことを目的に創造されました。救い主はトマスと十二使徒に「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない」と教えられました(ヨハネ14:6)。しかしそれよりはるか昔、主はモーセに「これが、時の中間に来るわたしの独り子の血によってすべての人に与えられる救いの計画である」と教えておられます(モーセ6:62)。

森の中での最初の示現、モルモン書の翻訳、聖書の改訂、モーセ書の啓示、そしてアブラハム書の翻訳を通して、預言者ジョセフ・スミスはイエス・キリストについての知識と証を急速に増していきました。そのようにして預言者ジョセフが得ていった知識と証は、教会の基礎を築くに当たって、大いに貢献しているのです。

ジョセフに与えられ、教義と聖約にまとめられた啓示は、救い主に関する知識の宝庫です。イエス・キリストについて、たとえ聖句ガイドにある数多くのテーマや参照聖句を研究したとしても、ジョセフ・スミスが救い主についてどれほど広範囲にわたる情報を世にもたらしたかを理解することはできないでしょう。わたしは、イエスが「初めに父とともに」おられたという知識に感謝しています(教義と聖約93:21)。イエスが「[[わたし]に代わってこれらの苦しみを負い、[[わたし]が悔い改めるならば苦しみを受けることのないように]」してくださったことを知っているので感謝しています(教義と聖約19:16)。

預言者が明らかにしたことに対するわたしの証

わたしにはもう一つ、深く感動し、感謝している救い主の業があります。マラキの約束、ジョセフを初めて訪れたときのモロナイの言葉、ニーファイ人を訪れたときの救い主の言葉、エリヤがカートランド神殿を訪れたときのこと、これらを研究することで、わたしは、神がその子供たちを愛しておられ、御自分のもとに帰る道を一人一人に用意しておられることを知りました。死者の贖いの教義以上に公平で、希望に満ちた教義をわたしは知りません。これまでこの地上に生き、愛し、貢献してきた人々、より良い日が来ることを待ち望みながらも

これまで
この地上に
生き、愛し、
貢献してきた人々、
より良い日が来ることを
待ち望みながらも
イエスについて
聞く機会も、
主の福音を
受け入れる機会も
なかった人々に、
救い主の贖いが
及ぶことを教えてくれた
啓示に
深く感謝しています。

イエスについて聞く機会も、主の福音を受け入れる機会もなかった人々に、救い主の贖いが及ぶことを教えてくれた啓示に深く感謝しています。たとえこの知識のほかにも何も知らないとしても、わたしはこの福音に改宗するでしょう。これが少なくともわたしにとっての、イエス・キリストとキリストの贖いの犠牲に対する究極の証です。

この比類ないキリストの救いの力について、何が言えるでしょうか。ジョセフ・スミスは聖なる森で、義の力が悪に打ち勝つことを学びました。それは最後の出来事をあらかじめ示すも



のとなっっています。主は次のように明らかにされています。

「わたしは、わたしの属する御方、すなわち父の、わたしについての御心^{みこころ}をなし終えた。わたしは万物をわたし自身に従わせようと、このことを行ってきた。

わたしは、世の終わりに、最後の大いなる裁きの日に、サタンと彼の業を滅ぼすほどの一切の権威を保持している。」(教義と聖約19:2-3)

救い主に対するわたしたち自身の証の骨組みとなっているのは、預言者ジョセフ・スミスの証と教えなのです。ですから、預言者が次のように教えたのも当然です。「わたしたちの宗教の基本原則は、使徒と預言者たちがイエス・キリストについて立てた証です。すなわち主が亡くなり、葬られ、3日目に再びよみがえって、天に昇られたことです。わたしたちの宗教に関するほかのすべての事柄は、それに付随するものにすぎません。」⁶

ジョセフ・スミスは使徒として、イエス・キリストが神であり、復活されたことを証しました。ジョセフはまた、救い主が持つておられる贖いと救いの力を知っていました。この知識と証は、預言者自身の美しく、力強く、簡潔な、次の証に最もよく表れています。

「そして今、小羊についてなされてきた多くの証の後、わたしたちが最後に小羊についてなす証はこれである。すなわち、『小羊は生きておられる。』

わたしたちはまことに神の右に小羊を見たからである。また、わたしたちは証する声を聞いた。すなわち、『彼は御父の独り子であり、彼によって、彼を通じて、彼から、もろもろの世界が現在創造され、また過去に創造された。そして、それらに住む者は神のもとに生まれた息子や娘となる』と。」(教義と聖約76:22-24)

ジョセフ・スミスが使徒として召されたことに、わたしは心からの感謝をささげます。■

注

1. *Book of Mormon Reference Companion*, デニス・L・ラージー編(2003年), 457-458参照
2. ルーシー・マック・スミス, *History of Joseph Smith*, プレストン・ニブレイ編(1958年), 128-129参照
3. *History of Joseph Smith*, 128, 129
4. 1828年6月に116ページが紛失した。7月にジョセフ・スミスは、現在の教義と聖約第3章を啓示として受けた。版は9月に預言者に戻された。教義と聖約第3章, 10章の前書きにある歴史的説明の部分参照
5. *History of the Church*, 第4巻, 461
6. *History of the Church*, 第3巻, 30

若い宣教師

ラウカウ・モコフィシ

それはわたしの親友が13歳になる誕生日のことでした。学校に行く前に、急いで彼女へのプレゼントになるものを探そうとしましたが、何も見つけることができませんでした。そのとき、モルモン書が目にとまりました。わたしは勇気を出して、それをプレゼントすることにしました。良い気持ちでしたが、モルモン書を今までだれにも上げたことがなかったので、どこか怖い気持ちもありました。受け取ってくれないのではないかと心配になりました。

学校に着くと、わたしは彼女を探し、渡したい特別な本があると伝えました。彼女はモルモン書を手にとると、最初のページにはっておいたわたしの家族の写真を見ました。わたしは彼女に、それはモルモン書といって、わたしたちがなぜこの地上にいるのかについて真実を教えてくれる本だと言いました。もっとすてきなプレゼントを上げられなくて申し訳ないとも言いました。

彼女はわたしの目を見て、最高のプレゼントだと言ってくれました。彼女の言葉に感動し、泣きそうになりました。もう宣教師になったような気分でした。伝道に出られる年齢になるのが待ち切れません。伝道に出れば、この親友のような人々にも福音を分かち合うことができるからです。■

お気に入りの 賛美歌を探して

マイケル・ポール・インヤン

わたしの伝道部会長は、ガーナ・アクラ伝道部の宣教師に「集中しなさい」といつも忠告していました。伝道部会長がいつもそのような言うことは有名でした。あるゾーン大会で、わたしたちが「集中」できるようにいくつかの方法を提案してくれました。中でも重要な方法だったのが、お気に入りの賛美歌を持つことでした。

お気に入りの賛美歌を選び、暗記し、誘惑に遭うときや気分が沈むときに歌うようにと言われました。その日中、この言葉がずっとわたしの頭に鳴り響いていました。

当時わたしはホームシックでした。しばらく家族のだれからも便りがなく、気分が沈んでいました。それで、集中

することができていませんでした。まさに、霊を高めるために賛美歌を選ぶ必要がある時でした。緑色の賛美歌集にあるたくさんの賛美歌を知っているけれども、わたしはどれがいちばん好きなのでしょうか。

その夜、わたしは古い賛美歌集を手に取り、わたしにとって安らぎを与えてくれる賛美歌を探しながら、折り目の付いたページをめくりました。すると、すぐにあることを思い出したのです。宣教師訓練センターにいたとき、当時アフリカ西地域会長であった七十人のシェルドン・F・チャイルド長老がわたしたちのグループを訪れ、贖罪について話してくれたことがありました。長老はこう話を締めくくりました。「もし、すべての宣教師が主イエス・キリストの贖罪を理解したならば、伝道部の規則は必要なくなるでしょう。」

わたしが必要としていたのは、まさにそのような賛美歌でした。どの賛美歌を選べばよいかについて、もう迷うことはありませんでした。贖罪についての賛美歌があれば、救い主の愛を感じ、慰められ、そして主がわたしに求めておられることに集中できると思いました。

最終的に、賛美歌75番「主は生けりと知る」を選びました。

わたしは伝道部会長の賢明な忠告に感謝をしています。今わたしには暗記したお気に入りの賛美歌があります。いつもその賛美歌について深く考え、また、気分が沈むときや、試練や困難に直面するときにそれを歌うことを忘れません。「主は生けりと知る、そは幸を与う……飢えたる霊を救わんと生きたもう」■



「言葉にも、行状にも、
愛にも、〔御霊にも、〕
信仰にも、純潔にも、
信者の模範になりなさい。」
(1テモテ4:12)

信者の模範

中央若い男性および若い女性会長会

義 になかった一人の若い男性
または若い女性の影響力に
よって世の中は変わるとし
うか。答えは「もちろん!」です。

主は皆さんを信頼して、皆さんがバ
プテスマを受けたときに、御自分の御
名を預けてくださいました。主は皆さん
を信頼して、感謝の心をもって正しい
生活を送ることで、皆さんに、教会
や皆さん自身の家族を代表する者とな
ってほしいと願っておられるのです。
主は皆さんに「信者の模範」となるよう
に言っておられます。「信者の模範」と
は、ほかの人を主のもとへ導き、奇跡
を行い、この地上に神の王国を建設す
るために主を助ける人のことです。

2009年のミューチャルのテーマは、
テモテへの第一の手紙第4章12節で
使徒パウロが若い友であるテモテに
与えた助言の中にあります。パウロが
テモテに教えたことは今日の皆さんに
も当てはまります。なぜなら、皆さんも
テモテのように信者だからです。皆さん
は、イエス・キリストの福音が回復され
た「この時期に地上に生を受けた」
「優れた霊の持ち主」です。「神の王国

建設という責任を果たす」¹ 使命を持つ
世代の一人なのです。信仰と義にか
なれた模範という力を通して、皆さんは
全世界に影響を及ぼすことができます。
パウロはテモテにそれができるとし
ていました。わたしたちは皆さん
にそれができるとしっています。

トーマス・S・モンソン大管長は、「信
者の模範」となる方法についてすばら
しい勧告をしています。大管長は言
いました。「決断を下すときにはいつも、
次のことを自問してください。この決
断はわたしのためになるのだろうか。
この決断はほんとうにわたしのため
になるのだろうか。『ほかの人はどう思
うだろうか』という基準で自分の取る
べき行動を決めてはなりません。『わた
しは自分のことをどう考えるようになる
だろうか』という基準で行動すべきで
す。静かな細い声に従ってください。
確認の儀式のとき、権能を持つ人が皆
さんの頭の上に手を置いて『聖霊を受
けなさい』と言ったことを思い出して
ください。心を開き、魂の扉を開いて真
理を証するこの特別な声を聞くこと
ができるように努めてください。』²

信者はイエス・キリストに対する個人
的な証を絶えず強めます。信者は個人
の証から得られる祝福を知っており、
そのことを人に分かち合いたいと望
みます。皆さんも言葉や行いにより自
分の証を分かち合うことができます。

モンソン大管長はさらにこう教えて
います。「証は、しっかりと根を下ろし
ていれば、生涯にわたって皆さんに影
響を与えます。時間をどう使うか、だ
れとつきあうか決めるとき、助けに
なります。家族に対する態度にも、人
への接し方にも影響を与えます。皆
さんの生活に愛と平安、喜びをもたら
します。』³

この世は、皆さんの時間に少しでも
割り込んで、皆さんの注意を引こうと
躍起になっています。そのような世
の中で、皆さんは様々なプレッシャー
を感じ、様々な声を浴びせられている
かもしれません。時折、何が正しく、
何をすべきか分からなくなるかもしれ
ません。皆さんには毎週、聖餐を取り
「いつも御子を覚え、御子が与えて
くださった戒めを守る」という聖約
を新たにすることがあります(教義と
聖約20:77)。聖餐を受けるときに、
皆さんは聖なる



若い女性への勧め

御子の御名を進んで受けることを天の御父に示します。皆さんの言葉や行いは、皆さんがほんとうに聖約を守っていることを人々に証明します。聖約を新たに戒めを守るときに、聖霊は皆さんを導き「なすべきことをすべて告げ」くださるでしょう(2ニーファイ 32:3)。

『若人の強さのために』の中にある標準もまた皆さんを強め、皆さんが確固として良い模範となれるように助けてくれます。これらの標準を守るなら、皆さんは聖霊を常に伴^{はん}侶とすることができ、聖霊からの導きを受けることができるでしょう。皆さんの思いや行いはこの世のものとは異なり、皆さんの模範はほかの人々に良い影響を与えるようになるでしょう。「自分自身に対して良い思いを抱き、人々の生活にも良い影響を与えるでしょう。」⁴ 皆さんは幸福になり、皆さん

「**信**者の模範」となるのは簡単なことではありません。わたしたちが何者で、信者がどのような行いをするかを忘れずにいるには日々の努力が必要です。皆さんが強められ、友人や家族の模範となるように、毎日3つのことを行うようにお勧めします。わたしたちは会長会としてこれらのことを100パーセントいつも行っています。皆さんも一緒にやってみませんか。

まず第1に、毎日祈る。

第2に、少なくとも5分間毎日モルモン書を読む。

第3に、毎日ほほえむです。

わたしたちは皆さんにほほえむよう勧めます。なぜならわたしたちはイエス・キリストの福音が回復されたすばらしい時代に地上にいるからです。皆さんは神の預言者から次のように教えられています。すなわち、皆さんが「幸福において他と異なって」いればいるほど、世の善良な人々はそれだけ皆さんに引き寄せられるのです。¹

皆さんのような若い女性が何千人も、この3つを毎日行うならばどのようなことが起こるか考えてみてください。

後世まで続く人生の成功の多くは、ささいなことを何年にもわたって続けて行うという土台の上に築かれるので



イレイン・S・ダルトン会長(中央)、
メアリー・N・クック第一顧問(左)、
アン・M・ディブ第二顧問

す。この3つはささいで簡単なことですが、「小さな、簡単なことによって大いなることが成し遂げられる」ことを忘れないでください(アルマ37:6)。皆さんは、この3つを毎日行うことによって得られる祝福に気づくことでしょう。たとえ1日忘れても、次の日からまた始めることができます。

わたしたちは証^{あかし}します。もしも皆さんが毎日祈り、モルモン書を読み、ほほえむならば、その努力を通して祝福され、皆さんは信者の模範となり、この世を変える力を持った若い女性になれるでしょう。

注

1. スペンサー・W・キンボール, "The Role of Righteous Women," *Ensign*, 1979年11月号, 104



からにじみ出る幸福感や輝きに家族や友人が引き寄せられることでしょう。

もう一度尋ねます。「福音に添って生活をし、信者の模範となるよう最善を尽くす一人の若い男性や若い女性は、世の中を変えることができるでしょうか。」わたしたちはその答えが

「はい!」であることを、心の底から知っています。思いと会話と行いにおいて清くあるならば、皆さんを通して違いが生じるとわたしたちは信じています。わたしたちは皆さんを信じています。■

注

1. 「若人の強さのために」2
2. トーマス・S・モソン「模範になりなさい」『リアホナ』2005年5月号, 113
3. 『リアホナ』2005年5月号, 114
4. 「若人の強さのために」2

アロン神権の若い男性へ

パウロはテモテに、とても大切なことを思い起こさせました。それはテモテにも、アロン神権者一人一人にとっても大切なことです。「あんしゆ按手を受けた時、預言によってあなたに与えられて内に持っている恵みの賜物たまものを、軽視してはならない。」(1テモテ4:14) パウロは神権の大切さについて語っています。

神権を「軽視してはならない」とはどのような意味でしょうか。第1には、神権を通してもたらされる祝福を受けるのにふさわしい生活をするということです。わたしたちの思いや言葉、そして行いを誠実なものとし、あらゆる行いにおいて「信者の模範」となるように生活します。すなわち、毎日欠かさず祈り、聖典を読みます。セミナーに出席し、じゅうふん什分の一を納めます。可能な

所では、神殿に参入して死者のためのバプテスマを行います。

第2は、神権を尊び大いなるものとすることです。つまり、神権を使ってほかの人々に仕え、彼らの生活に恵みをもたらすのです。これは神権の責任を果たすことによって達成できます。例えば、個人的に、また定員会を通して奉仕します。そのほか家庭や学校、職場において、心む言葉や笑顔、あるいは称賛の言葉をかけてあげることで、それらを必要とする人に手を差し伸べるのです。

第3は、神権とその義務について学ぶことです。神権について書かれた聖句、特にアルマ書第13章と教義と聖約第13章、第20章、第84章、第107章、第121章を読み、深く考えてください。前回の総大会の神権部会で話された



チャールズ・W・ダークウイスト会長(中央)、
ディーン・R・バージェス第一顧問(左)、
マイケル・A・ナイダー第二顧問

説教を読んで、「そこから学んだことを、神権を尊び大いなるものとするためにどう役立てる」のか、自問してください。

わたしたちは皆さんを愛しています。皆さんを信頼しています。神権を尊び大いなるものとしてしようと努力するとき、皆さんは専任宣教師として主に仕えるためにより良く備えることができます。そして、パウロがテモテに約束したように、皆さんの奉仕と模範が皆さん自身と周囲の人々の生活に祝福をもたらすのです。皆さんの努力により、神の祝福がもたらされますように。

1 テモテ 4:12

今年のミュージャナルでは、
どのようにして世の人に模範を示すかというテーマを採り上げています。

年が若いために人に軽んじられてはならない

パウロはテモテに、福音に従って生活し、教会で奉仕することにおいて、テモテの年齢が比較的若いことは問題ではないと伝えました。これまで多くの若者が、力強く霊的な経験をしてきました。そのうちの幾つかについて書かれた、次の参照聖句を調べてください。サムエル上 17:12-49(ダビデ)、2ニーファイ2:4(ヤコブ)、モルモン1:15(モルモン)、ジョセフ・スミス—歴史1:7-20(ジョセフ・スミス)

人生のこの時期に、福音に忠実であることを示すためには、どうすればよいでしょう。日記にその内容を書いてください。

言葉

言葉遣いに最善の注意を払うなら、わたしたちは強い自制心を働かせることができます(ヤコブの手紙3:2参照)。言葉は人を言い負かす道具ではなく、徳を高めるべきものです(エペソ4:29;教義と聖約108:7参照)。これに関する改善策としては、例えば、人を褒めるための具体的な目標を書く、家族にもっと優しく語りかける、もっと感じのよい口調や表現を使う、品位のない言葉や攻撃的な言葉を避ける、このようなことができるでしょう。

行状

ギリシャ語に由来する言葉で、もとは振る舞いや態度を意味していました。

愛

「キリストの純粋な愛の種を、わたしたちの心にまく必要があります。キリストは、愛の完全な模範を示されました。主の生涯、特に、^{あがな}贖いの犠牲は愛の教えです。主のあらゆる行いには、わたしたち一人一人に対する完全で揺るぎない愛が表れています。主の模範は、わたしたちにこう教えています。愛とは、自分のことは差し置いてほかの人のために尽くすことだ、と。昇栄と永遠の命への進歩は、いかにわたしたちが愛の教えを学び実践しているかに懸かっています。」

十二使徒定員会 ジョセフ・B・ワースリン長老
「再生の種」『聖徒の道』1989年7月号, 9



模範

「人々に手本を示し、模範となるには、わたしたちの住んでいる世界に天変地異や何か劇的な出来事が起きたり、特別な召しを受けたりするのを待つ必要はありません。模範となる機会は、どこにでもあります。すぐにつかまないと見失ってしまいます。そうした機会は家の中にも、また日常生活の中にもあります。わたしたちの主、救い主が道を示してくださいました。『(主は)よい働きをしながら……巡回されました。』(使徒10:38) 主はまさしく行いを通して手本を示し、信者の模範となられたのです。」

「わたしたちはどうでしょうか。」

トーマス・S・モンソン大管長
「信者の模範」『聖徒の道』1993年1月号, 111

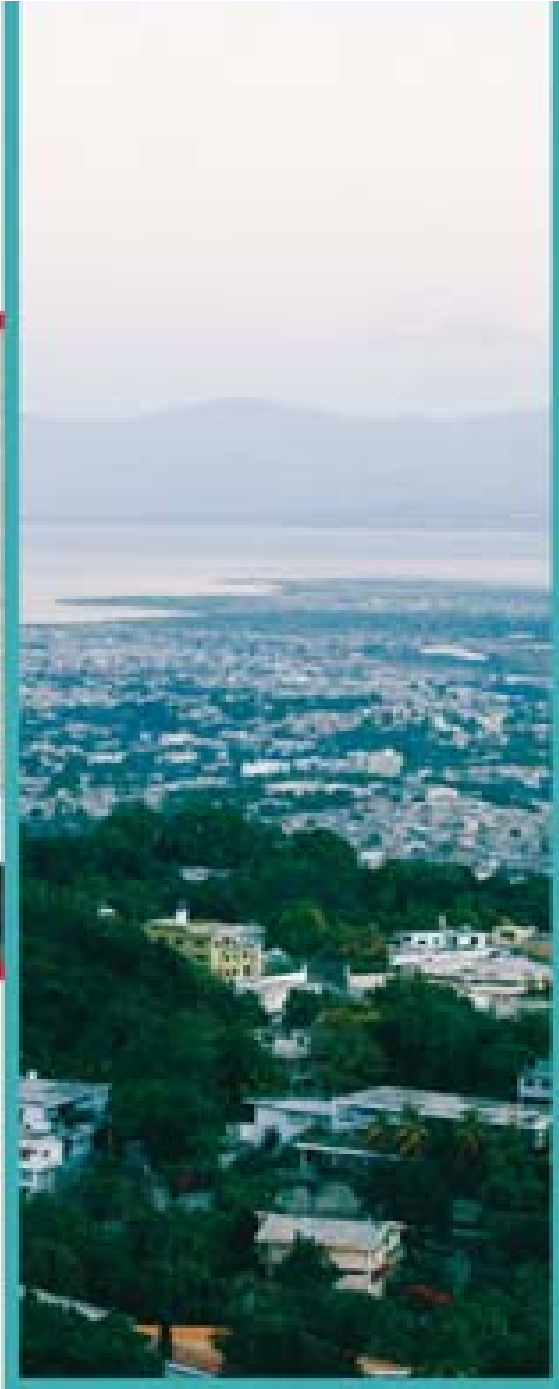
信仰

信仰の模範となるには、使徒ヤコブの教えに従いましょう。「わたしの行いによって信仰を見せてあげよう。」(ヤコブの手紙2:18)

清さ

賛美歌「さらに^{きよ}聖くなお努めん」(『賛美歌』74番)の歌詞を読んで、清さの模範となるためにはどんなことが大切なのか深く考えてみてください。

日本語訳は、日本聖書協会口語訳聖書から引用



ハイチには
希望が
あります

この島国には
伝道がしっかり息づき、
若い世代の人たちはそれを
守り続けようと決意しています。



教会機関誌

リチャード・M・ロムニー

18歳のディエブ・デモステーネと、19歳のロバンソン・マルセル・ラロク・ジャンの二人は親友です。そして、これからも親友でいるつもりです。永遠に。

「ぼくたちの家は近所で、以前からよく一緒にバスケットボールをしていました」とロバンソンは話します。「ぼくは16歳のときに教会に入りましたが、しばらくしてディエブにも来たらどうかと勧めました。彼のためにたくさん祈って、あきらめませんでした。見てください。今では強い信仰を持つ教会員です。ぼくはディエブを誇りに思っています。」

「ロバンソンが何度も勧めてくれたので、ぼくは受け入れました」とディエブは言います。「ロバンソンはいつも、素晴らしい話をしてくれました。まるで何でも知っているかのようでした。そういうわけで、彼の誘いは苦痛に感じるようなものではなく、むしろ特別なものでした。しばらくして、ぼくは宣教師から福音を学ぶようになり、17歳のときに教会に入りました。」

理想

伝道活動のあるべき姿がここにあります。それは、友人に福音について話し、宣教師に紹介して教えてもらうという方法です。「最初は友達の中で教会員はぼく一人でしたが、今は二人になりました。今度はぼくたち二人で同じことを続けていきます」とロバンソンは言います。二人の努力が実り、ディエブのお兄さんと別の友人も教会に入りました。1人が2人になり、2人が4人になりました。



**ロバンソン・ジャン、
ディエブ・デモステーネ、
ナタリー・ラゲール、
ファラ・ジャン—
バプティストのような
末日聖徒の
青少年たちの希望が
開花しつつあります。
彼らは、福音によって
自分たちの生活が
変わったように、
国家も変わることを
信じています。
国中に福音を
宣べ伝えるために
奉獻された
ポルト・フランスの
丘の頂上から、
ハイチの末日聖徒は
ほほえみを
交わしながら
将来に備えています。**

ハイチ・ポルト・フランス北ステークの中央ワードに所属するロバンソンとディエブの行いは、ハイチにおける伝道の業を象徴しています。というのも2005年の政治紛争によって、外国人宣教師は国外に避難させられたからです。ハイチ・ポルト・フランス伝道部では、自国の教会員だけで伝道する方法を模索して^{こんいち}いました。そして、その方法を見つけたのです。今日ハイチではハイチ人のみで伝道しています。そして、10代の若者は該当する年齢になったら伝道に出ることを望んでいます。彼らは専任宣教師として召される前から、隣人や友人に手を差し伸べています。

「ハイチにある末日聖徒イエス・キリスト教会は、どこを見渡してもハイチ人の会員ばかりです。」同じ中央ワードの若い女性である18歳のファラ・ジャン・バプティストは言います。「ハイチの教会の未来は、自分たちの肩に懸かっていると自覚することが、青少年のやる気を引き出す強い源となっています。」

「ここハイチの教会では、若い男性と若い女性は救い主に従おうという気持ちが高められています。」こう語るの、ファラと同じワードの17歳の友人、ナタリー・ラゲールです。「わたしたちは主の道を歩み、主の業が前進するのを見たいのです。ですから、自国の宣教師がハ



最上部——

伝道本部で働く
長老たちと話す
伝道部会長夫妻。
ピエール・ノー

伝道部会長は、
末日聖徒の青少年が
今から福音を
紹介し始めるように
勧めています。

「皆さんはすでに宣教師です」
と彼は言います。

上——

妻と子供たちとくつろぐ
ハイチ・ポルト・フランス
北ステークの
フランシオン会長。

彼は、教会が様々な面で
青少年を祝福している
と言います。

イチで伝道する姿を見ると、うれしさが込み上げてきます。宣教師たちは熱意と喜びにあふれていて、伝道が終わると、どんなにすばらしい経験をしたかを話してくれます。そして、わたしたちも同じ経験をするように、そして今すぐ友達に福音について話すようにと勧められます。」

ナタリーは、若い女性には若い男性のように専任宣教師として奉仕する神権の義務はないけれども「奉仕の業に携わる人には、たくさんの祝福があることを知っています」と言います。「だれもがほかの人を祝福することができますし、そうすることで自分も高められます。その結果、人生で直面するチャレンジにひるむことなく、福音に根ざした生活ができるようになります。それは、わたしたち青少年がイエス・キリストの真の弟子であり、証人であり、キリストの模範に従っている証拠なのです。」

希望

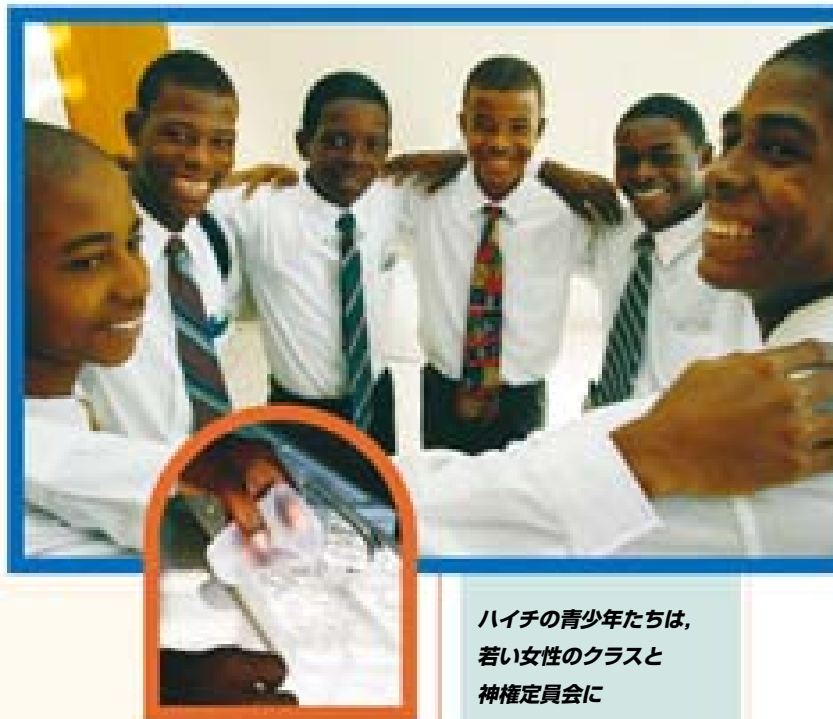
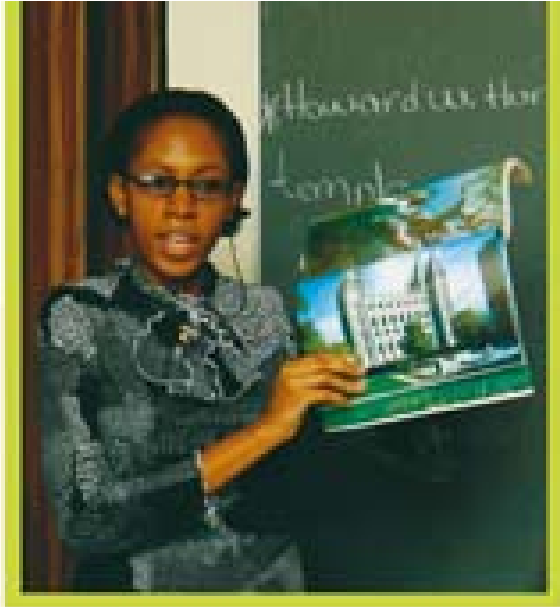
「ここハイチには、神の王国を築くという大きな希望があります」とハイチ・ポルト・フランス北ステークのGh・ガマル・フランシオン会長は言います。「青少年は伝道に出ることを強く望んでいます。大学を二の次にしてでも伝道を優先させることは、彼らにとって自然な成長の一過程です。街頭で宣教師を見かけたら、声を

かけてみてください。すると、彼らは学業を中断して来たのは、主の業に召されているからだ」と答えることでしょう。」

フランシオン会長は、帰還宣教師の妻を持つことで、家庭で受けている祝福について特に言及しています。宣教師として働くことから直接に得られる結果があります。それは、より堅固な家庭が築かれ、より有能な指導者が生まれることです。「想像してみてください。これほどたくさんのハイチ人が自国で伝道しているのですから、15年後あるいは20年後のハイチの教会はどれほど発展していることでしょう。」「会員たちは預言者から、中央幹部や、かつてハイチで伝道した外国の帰還宣教師たちに至るまで、多くの人々の愛と助けを感じています」とフランシオン会長は言います。しかし現在では、伝道活動は100パーセント、ハイチ人が行っています。フシャル・ピエール・ノー伝道部会長も、10年ほど前にハイチで伝道した地元出身の帰還宣教師です。」

未来

かつては、ハイチの教会は、外国の援助がなければやっていけないだろうと考える人もいました。「でも、わたしはまったく心配していませんでした。」そう語るのは、現在ハイチ・ポルト・プラ



ンス伝道部で働くJ・アンリ・ミシェル長老です。「教会が失敗することは決してありません。イエス・キリストの教会ですから、それはあり得ないのです。」

それどころか、人々が福音から得られる幸福に気づき、ハイチの教会は発展し続けるだろうとディエブは言います。「ロバンソンがほくに福音を紹介してくれたことに、とても感謝しています。だからほくもほかの人に福音を紹介したいのです。先週のことで、昔のほくは喜びとは何か分かっていたのだろうかと思問しました。というのも、今では物質的に欲しいものがすべて手に入らなくても、いつも心に平安を感じるからです。ほくには、天の御父に近づくと、いう大きな希望があるのです。」

ロバンソンはこう言います。「ほくはもう宣教師になるために努力しています。毎日、ほかの人に紹介するために、モルモン書を数冊かばんに入れて持ち運んでいます。多くの人がほくが教会員だと知っていますし、ほくは証をしたくてしょうがないのです。専任宣教師になることは、神様の子供たちへの奉仕を通して神様に仕えるすばらしい機会です。絶対伝道に出たいです。」

ディエブは、頻繁に帰還宣教師と話をすると、言います。「帰還宣教師たちは、主が宣教師を

通して人々をどのように祝福されるのか教えてください。ほくもそんな祝福に携わりたいです。彼らは伝道地でどのように生活し、それがどれほどすばらしいものだったか話してくれます。また、伝道を終えた後も、彼らはふさわしさを保ち、良い模範となっています。ほくもそのようになりたいです。」

将来のハイチはどう変わっていくのでしょうか。「天の御父はハイチのために計画をお持ちです」とディエブは言います。「ハイチの会員が堅固になる機会を与えてくださっています。ハイチ人を教えるのはハイチ人です。そして、それがわたしたちを祝福するのです。」

ロバンソンには間もなく伝道の召しが来ますが、彼は伝道地がハイチであることを望んでいます。ディエブもそれほど遠くない将来に伝道に出る予定ですが、やはり自国で奉仕したいと願っています。しかし、ハイチへ召されようと外国へ召されようと、彼らは伝道を通してさらに多くの教会の友人を作ること、そしてその友情に終わりがいいことを知っているのです。それは、福音の友は永遠の友だからです。■

ハイチの青少年たちは、若い女性のクラスと神権定員会に積極的に参加しています。彼らは、バプテスマのときに交わした約束を覚えているばかりでなく、毎日その約束に従って生活しています。



モルモンであることを決して忘れないで

ヒルド・ロシロ・フローレス

「わたしたちが過ちを犯したり、行うべきことを十分に行わなかったりするとき、わたしたちはほんとうの意味で、母親を忘れていたのです。」トーマス・S・モンソン大管長はそう言いました。また、こう付け加えています。「人は、母親のことを思い起こすとき、間違った生き方を改め、良心の目指すところに従って歩み始めます。」¹

わたしは、このモンソン大管長のメッセージに強められてきました。初めてこの言葉を聞いたとき、わたしは母のことを思い出しました。そして数年前、

教会に入ったばかりのころに母がくれた賢明な勧告を思い起こしました。

母は、別のキリスト教会の会員でしたが、わたしに福音を教えてくれた宣教師に親切にしてくれました。末日聖徒になると決意してから、いつもわたしを支えてくれました。

わたしは教会に行くのをやめよう
と決心しました。
1週間後、母はまっすぐにわたしの目を見て、あることを話してくれました。
以来ずっとその言葉を決して忘れないようにしてきました。

教会員としての新しい生活は、祖国ペルーの「ジャーナリズムの日」の祝賀会に参加するまで、順調に進んでいました。参加した祝賀会では、祝辞や賛辞の言葉が述べられ、祝杯が挙げられました。祝賀会が進むとともに、友人とお酒を飲む衝動に駆られました。

この教会の改宗者は福音を受け入れたときに変化すると言いますが、その変化とは新しい友人を作る必要に迫られるという意味であることがしばしばあります。わたしが経験したように、状況によっては、サタンは昔の友人を通して誘惑し、戒めを破って、昔の生活に戻そうとしてくることもあります。

職場の同僚たちにビールを1杯勧められると、わたしはそのコップを受け取って飲み、その後も飲み続けました。



パーティーが
終わるころには、
良心の呵責かしやくにさいな
まれていました。わたし
は罪を犯したのです。母は
何と言うのでしょうか。

家に着くと、わたしは何も
言わず、すぐに寝室に行きました。
母は何も言いませんでした。しかし、
わたしは自分を恥じ、教会に行くのを
やめようと決心しました。1週
間後、母とわたしが昼食を囲
んでテーブルに着いていたと
き、母はまっすぐにわたしの
目を見て言いました。「自分
がモルモンであることを、決
して忘れないでね。」


わたしは、通勤のため、自
転車で教会のそばを通過
していました。その度に、良心の
呵責を覚えました。ある夜、
罪悪感を抱きながら生活す
るのはもうやめようと決心しま
した。わたしは支部会長室
の前に自転車を止め、中に入
り、面接をお願いしました。

自分がしたことを支部会長に話し、
ゆるゆる赦しを求め、会長から助言を受けまし
た。そのときから、わたしは一度も知
恵の言葉を破ったことはありません。

母は20年以上前に他界しましたが、
母がわたしに言ったことをいつも思い
起こし、決して忘れないようにしてしま
しました。わたしは末日聖徒イエス・キリ
スト教会の会員なのです。■

注

1. 「ごらんさい、これはあなたの母です」『聖徒
の道』1998年4月号、4



胎児の
生死の
行方は
分かりません
でしたが、ただ、
主に頼るならば、
主がわたしの重荷を
軽くしてくださることを
知っていました。

2倍の祝福

アンジェラ・リー

夫とともに、おなかの子供の性
別と発育を確認するため医
師のもとを訪れた日、わたし
の人生は永遠に変わりました。わたし
は、双子を授かったことを知り、喜びの
涙を流しました。しかし、わたしの涙
は絶望の涙へと変わりました。複数の
合併症のため、双子の命は誕生まで
持たないだろうと、医師に告げられた
からです。医師は、中絶するよう提案
しました。妊娠を継続するのは危険を

伴い、ある時点で入院を余儀なくされ
ると言うのです。

わたしたちは、危険を承知で、中絶
しない決意をしました。

車で帰宅する途中、わたしは事の深
刻さを実感しました。夫と3人の子供
たちを置いて長期入院するなんて、ど
うしたらよいのでしょうか。また、おな
かの双子が早産になりそうなこと、ま
た、生き延びられないかもしれないと
知り、打ちのめされていました。わた
しは、この試練に耐えられるか、分か
りませんでした。

夫と義父から神権の祝福を受けて、
やっと平安を得ました。結果がどうで
あれ、家族とわたしは大丈夫なのだ

分かりました。わたしは、救い主の愛を感じ、喜びのときも悲しみのときも、わたしたちとともにいてくださることを知りました。

それからしばらくして、家族に別れを告げ、いつ終わるとも知れない入院生活が始まりました。絶えず胎児の心拍が監視され、無事を確認していました。胎児の心拍数が低下するのを見るのはとてもつらく、出産の目安となっている、34週を乗り切れるだろうかと心配していました。25週目の半ばを迎えたころ、胎児の一人の心拍がほとんど止まりかけ、危篤状態に陥りました。医師は、このまま胎児の心拍数が正常に戻らなければ、緊急帝王切開で二人ともすぐに取り上げることに決めました。看護師が夫に電話し、もうすぐわたしの手術が始まること、新生児医療チームがスタンバイしていることを伝えました。わたしはそれを聞きながら、うろたえました。

わたしは、この試練を乗り切るために、天の御父の助けが必要であることを知っていました。静かに祈り、わたしたちの赤ちゃんが回復するよう、また、二人とも胎内で必要

なだけ育つことができるように、

懇願しました。また、慰めを求めて祈りました。すると、神権の祝福を受けたときのように、再び平安を取り戻しました。胎児の生死の行方は分かりませんでした。ただ、どんなことが起ころうと、主に頼るならば、主がわたしの重荷を軽くしてくださることを知っていました。すると、胎児の鼓動が正常に戻り、手術はもはや必要ではなくなりました。

入院はさらに2か月続き、その間何度も二人の心拍数が変動し、心配させられました。しかし幸運なことに、双子の心拍が前のように低くなることはありませんでした。わたしたちの息子、ジョンとジェーコブは、33週で生まれました。二人のへその緒はからみついて8つの結び目ができていました。そして、心拍数が非常に低くなった息子のジョンは、自分のへその緒が首に二重に巻きついていました。双子の息子たちは、体温と呼吸を管理できる、病院の集中治療室に入りました。早産に伴う問題が発生する可能性がありましたが、結局ジョンとジェーコブはわずか19日で家に帰ることができました。

二人は今、よちよち歩きの年齢になりましたが、早産による悪影響は何もありません。試練として始まった出来事が、人生で最高の祝福と呼べるような経験となったことに感謝しています。二人の健康な息子の

に恵まれましたし、神権の祝福と祈りの力についての証も強められました。また、主がわたしの状況を知っておられると分かったときに感じた、平安と愛を思い出せることに感謝しています。そのとき、主の助けがあれば、試練を堪え忍ぶ力が受けられることを学びました。■

過去を忘れることはできるでしょうか。

マルコス・A・ワーカー

わたしのような営業の現場で働く者にとって、前向きで活な姿勢は欠かせません。しかし数年前、わたしは落胆し、だれとも話したくありませんでした。これは、ある日の午後の出来事です。

やるせなさが顔に表れていたのでしょう。折にふれてよく話していた同僚に、どうかしたのかと尋ねられたのです。わたしは、6年連れ添った妻と離婚していたことを話しました。その月でちょうど離婚して6年でした。つまり、離婚してから、結婚していた期間と同じだけ月日が流れたこととなります。わたしの思いと心はかき乱され、魂は苦痛と悲しみでいっぱいでした。わたしは子供たちが経験していることの多くを見逃していました。その事実が常にわたしを苦しめてきました。寂しさから元気を失い、解決策どころか希望さえも見いだせずしていました。これが過ちの代価だと同僚に話しました。

別の教会の会員であったその同僚は、こう答えました。「君が話しているのは、何の代価なんだい。」彼はそう尋ねると、こう言いました。「もし、君





がほんとうに罪を悔い改めたのなら、イエス・キリストは罪の代価を支払ってくださったはずだよ。それとも君は、主が何のために地上に来られたのか、覚えていないのかい。」

わたしは彼の返答に驚き、彼の話言葉に言葉を失いました。彼の言葉が、日暮れまでずっとわたしの心に響いていました。わたしが間違いばかり犯しながら生活していた

としても、イエス・キリストがその代価を支払ってくださっていたのです。どうしてそのことを理解していなかったのでしょうか。わたしはこの教義を知っていました。そして、それが真実であると知っていました。贖^{あがな}いがわたしの生活に効力を及ぼしていることを悟り、平安と慰めに満たされました。今でもそのときの気持ちを覚えています。

職場でこのような経験をしてから、

わ たしの魂は
苦痛と
悲しみで
いっぱいでした。
これが過ちの代価だと
同僚に話しました。

数年が過ぎました。わたしたちの行いが、わたしたち皆の生活に、何らかの結果を残すことを学びました。それらの多くは、

わたしたちの愛する人たちの生活に影響を及ぼします。孤独な日々は簡単なものではありませんでしたが、自分の弱さを悟り、天の御父と、最も影響を及ぼした子供たちと子供たちの母親に、赦しを求めることができました。

あの日の午後に感じていた気持ちとは対照的に、今は穏やかで希望にあふれていると言えます。イエス・キリストが代価を支払ってくださったことを

知っています。わたしは悔い改めたので、そのことに何の疑いもありません。ここ数年の試練の間、主はわたしを支えてくださっていました。試練は続いています。悔い改め、主に心に向け、戒めを守るなら、主はこの先もずっと、わたしを支えてくださることを知っています。■

家庭の夕べのためのアイデア

以下の提案は、家庭だけではなくクラスでのレッスンにおいても役立てることができます。皆さんの家庭やクラスに合わせて変更を加えてもよいでしょう。

「教義と聖約の研究を充実させる」

10ページ——日曜学校でよく学び、積極的に意見を言えるように準備するにはどうしたらよいか、年長の子供たちとさまざまな方法について話し合いましょう。今年、もっとよく準備をして日曜学校に参加するために、子供たちに具体的な目標を立てるよう勧めてください。または、家族と一緒に取り組む目標を作ってください。年少の子供たちには、能力に応じた目標を設定するように助けてください。例えば、「レッスンに聖典を持って行く」「遅刻しない」「教師のために祈る」「手を挙げる」などです。目標を達成するために、互いに助け合える方法について話し合ってください。



「信者の模範」36ページ——周りの人々が「信者の模範」となったときのことについて、家族に書き出してもらいましょう。書いたことを分かち合い、家族一人一人が良い模範になれる方法について話し合ってください。模範になるための目標を設定してください。

「タレントショー」

F8ページ——記事を読み、マリーが自分にどのような才能があることを発見したか、見つけてください。家族が自分の隠れた才能を発見するよう、それぞれ左にいる家族の才能について話してもらいます。時間が許せば、これを何度か繰り返してもよいでしょう。最後にモロナイ7:47と、挿入されているL・トム・ペリー長老の言葉を読んでください。

「ベンの1週間」F14ページ——記事を読み、日曜日には買い物に行かないよう、ベンがおじいさんをお願いした

今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

Fは「フレンド」の略	才能, F8
愛, 2, F4, F8	賛美歌, 35
証, 2, 8, 18, 22, 28, 36	使徒, 28
あかな 贖い, 28, 35, 46	祝福, 17, 18, 26, 45
安息日, F14	初等協会, F4, F8
イエス・キリスト, 46, F2	神権(アロン), 38
祈り, 8, 10, 14, 45	信仰, 14, 18, 25, 26, 39, 45, F2
インスティテュート, 18	聖文, 10, 22, 28, 39, F4
教える, 10	伝道活動, 2, 35, 40
家庭の夕べ, 48, F10	日曜学校, 10
家庭訪問, 25	模範, 2, 8, 36, 39, 40, F2, F10, F14
犠牲, 26	モルモン書, 22, 28, 35, F6
希望, 40, F2	誘惑, 44
教育, 22	
教義と聖約, 10	
キリストのような属性, F2	
悔い改め, 46	

とき、どれだけ勇気が必要だったかに注目します。戒めを守るよう努力するとき、家族のみながどのように勇気を持てるかを話し合ってください。正義を選ぶために勇気が必要な場面を演じてください。

家庭の夕べを変えたレッスン

わたしたちには、5歳、3歳、1歳の3人の幼い子供がいます。初めのうち、わたしたちの家庭の夕べは、さんたんたるものでした。子供たちが自分の方へ注意を引こうとしてじゃまをするからです。妻とわたしは、もう少しでくじげるところでした。

ある月曜日の夜、妻はフランネルボードを視覚教材にを使ってレーマン人サムエルについて教えました。記録に書かれている登場人物について述べ、全員で交互に該当する絵をボードにはっていききました。子供たちはとても

楽しんで活動に取り組みました。何か月もやってきて初めて、穏やかな、御霊に満ちた家庭の夕べになりました。

このレッスンによって、わたしたちの家庭の夕べはすっかり変わりました。参加型のレッスンを用意すると、子供たちも協力してくれ、家庭の夕べがうまく進行するようになりました。また、わたしたちは、家庭の夕べの計画のために、もっと時間を割くようにしました。そして、同じ内容の家庭の夕べは行わないことに決めました。様々な活動を行い、子供たちの関心を引くようにしました。

このような取り組みを家庭の夕べで行い、継続するために、親であるわたしたちには入念な工夫が必要でした。けれども、今では子供たちは家庭の夕べを楽しみにし、以前より積極的に参加しています。

ナイジェリア・アブジャ、
フランシス・O・ンメリベ、アダ・U・ンメリベ

あなたの大好きな家庭の夕べ

あなたの大好きな家庭の夕べについての説明文を、liahona@ldschurch.org までお寄せください。



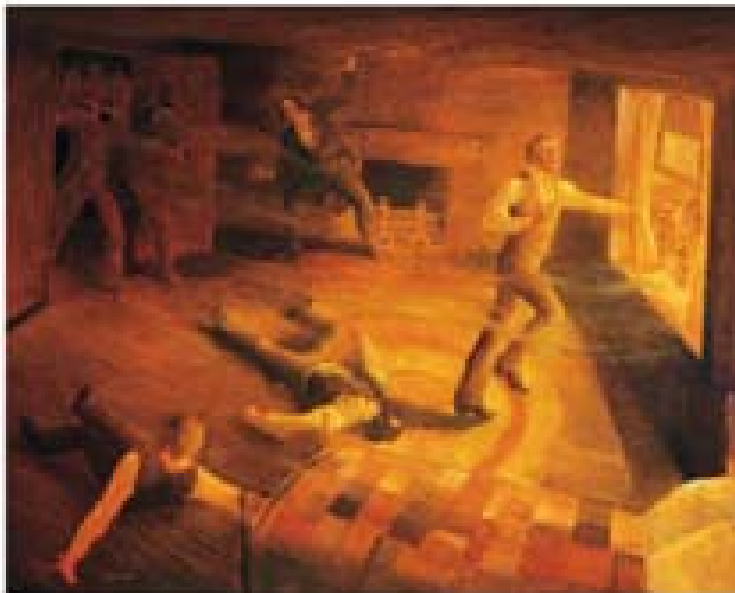
「小さな、簡単なことによって大いなることが成し遂げられるのである」(アルマ37：6) デビッド・コー画

ニューヨーク州パルマイラ町の、聖なる森に近い丸木造りの家で、

息子のジョセフとハイラムに聖文を読み聞かせる若きルーシー・マック・スミス。

ささやかに暮らしたジョセフは、最後の神権時代の預言者として完全な福音を地上に回復した。

そして1844年6月27日、立派に成長したこの二人の少年は、殉教者として、また、回復が真実であることの証人として世を去った。



「少年ジョセフは知恵を求めて森へ入り、知恵を得ました。
使徒となるための教育が始まったのです。
最初の示現の中に、使徒になるために必要な重要な教えが含まれていました。
とりわけ、救い主と天の御父の肉体的な特質に関する教えと、
御二方の力に関する最初の基本的な教えが含まれていました。
どちらも使徒として欠かせない柱となる証です。」
デニス・B・ノイエンシュワンダー長老はそう述べている。
「ジョセフ・スミス——イエス・キリストの使徒」28ページ参照